

極東ロシアから太平洋ロシアへ ～当面期待されるのは中国を含むアジアへの供給力～

2013年3月15日



 **Marubeni**
CORPORATION

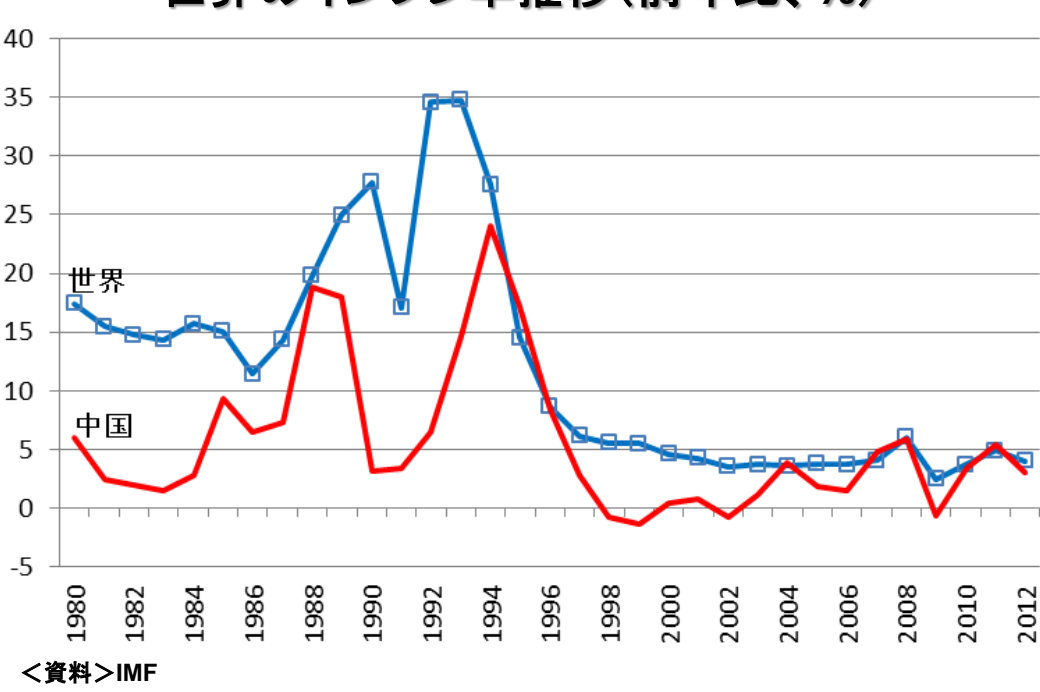
丸紅経済研究所

はじめに. 再認識したいBRICsの重要性: 売れなければ作れない

名目GDPの増加額(世界上位20ヶ国)

順位	国名	03-12年(実績)	国名	12-17年(予測)
1	中国	8225	中国	7816
2	米国	4511	米国	4092
3	インド	2776	インド	2331
4	ロシア	1108	ロシア	785
5	日本	1082	ブラジル	780
6	ブラジル	988	日本	688
7	ドイツ	890	インドネシア	603
8	韓国	679	韓国	511
9	メキシコ	622	ドイツ	497
10	インドネシア	609	メキシコ	495
11	英国	591	英国	493
12	フランス	566	トルコ	372
13	トルコ	552	フランス	360
14	カナダ	439	台湾	323
15	イラン	435	カナダ	315
16	アルゼンチン	414	豪州	260
17	台湾	387	タイ	249
18	スペイン	358	サウジアラビア	245
19	ポーランド	353	イタリア	235
20	豪州	348	アルゼンチン	230

世界のインフレ率推移(前年比、%)



近年、BRICsからASEANへ日本企業の関心が移りつつある。その背景には、中国の人件費上昇といった供給側の論理が存在。しかし中国の巨大な供給力の出現により、今日では 供給よりも需要の相対的な重要性が高まっている可能性が高い (世界のインフレ率は長期低下傾向)。そして名目GDPから需要の増加額を見ると、実績・予測とも BRICs+日米が上位6ヶ国を占める。

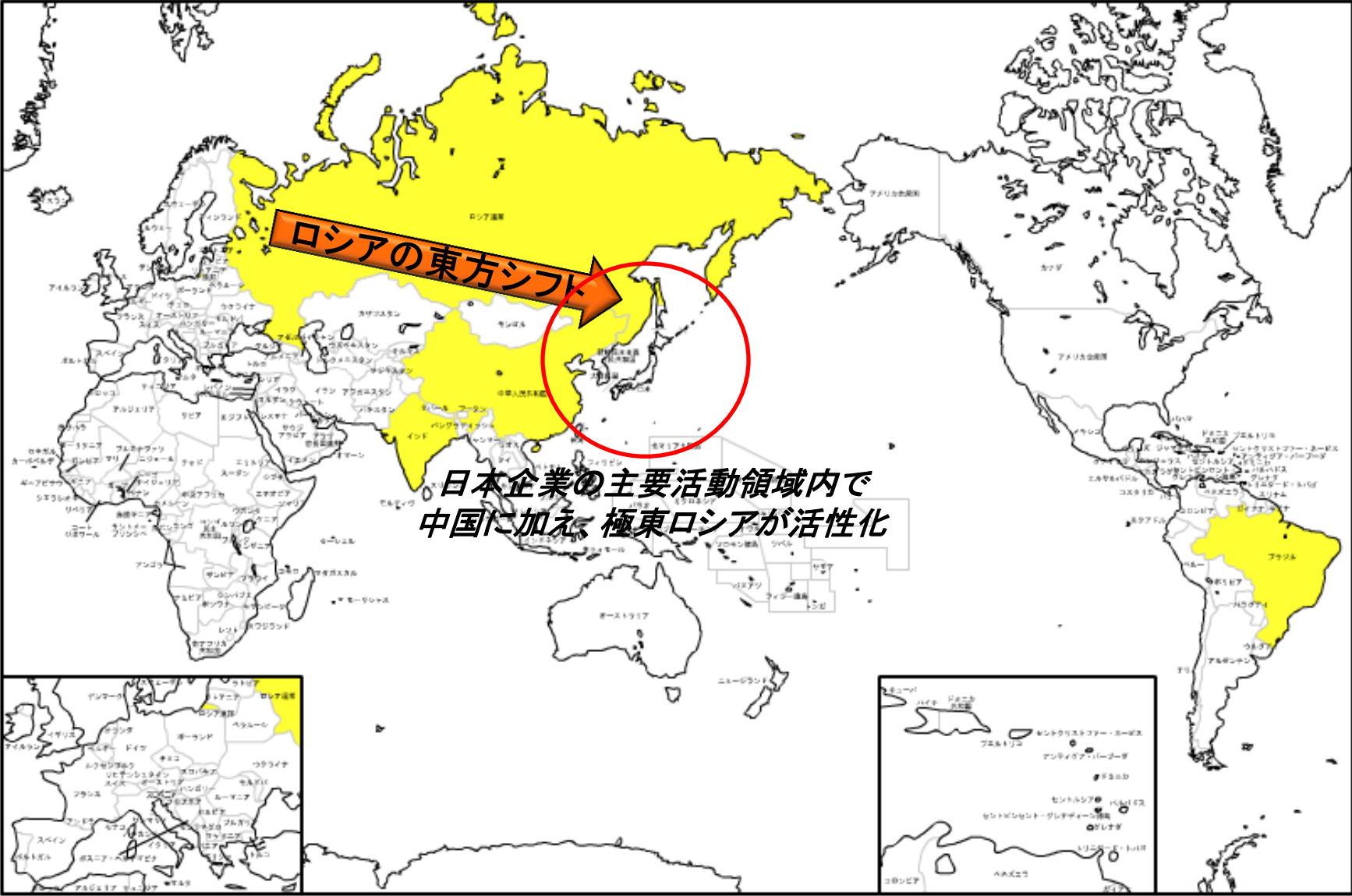
はじめに. 再認識したいBRICsの重要性: 近年の景気減速は予測範囲内

BRICsの実質GDP成長率: 予測と実績の比較(予測はGoldman Sachs”Dreaming With BRICs: The Path to 2050”)

	ブラジル		ロシア		インド		中国	
	GS社予測	実績	GS社予測	実績	GS社予測	実績	GS社予測	実績
2003	1.1	1.1	6.1	7.3	5.6	6.9	8.1	10.0
2004	3.5	5.7	4.4	7.2	5.9	7.6	8.4	10.1
2005	4.2	3.2	5.8	6.4	6.2	9.0	7.9	11.3
2006	4.1	4.0	5.3	8.2	6.2	9.5	7.6	12.7
2007	4.1	6.1	4.8	8.5	6.1	10.0	7.3	14.2
2008	4.1	5.2	4.5	5.2	6.1	6.9	7.1	9.6
2009	4.2	-0.3	4.3	-7.8	6.1	5.9	6.9	9.2
2010	4.2	7.5	4.1	4.3	6.1	10.1	6.6	10.4
2011	4.1	2.7	4.0	4.3	6.0	6.8	6.4	9.2
2012	4.1	1.5	3.8	3.7	6.0	4.9	6.0	7.8
03-12平均	3.8	3.7	4.7	4.7	6.0	7.8	7.2	10.5
2010-2015	4.1	—	3.8	—	5.9	—	5.9	—
2015-2020	3.8	—	3.4	—	5.7	—	5.0	—
2020-2025	3.7	—	3.4	—	5.7	—	4.6	—
2025-2030	3.8	—	3.5	—	5.9	—	4.1	—
2030-2035	3.9	—	3.1	—	6.1	—	3.9	—
2035-2040	3.8	—	2.6	—	6.0	—	3.9	—
2040-2045	3.6	—	2.2	—	5.6	—	3.5	—
2045-2050	3.4	—	1.9	—	5.2	—	2.9	—

<資料>IMF、Goldman Sachs”Dreaming With BRICs: The Path to 2050”

はじめに. 再認識したいBRICsの重要性: 近くなるロシア



I. 極東ロシアを定義する

1. 極端に低い極東の人口密度: 全体の40%の土地に4%の人口が居住



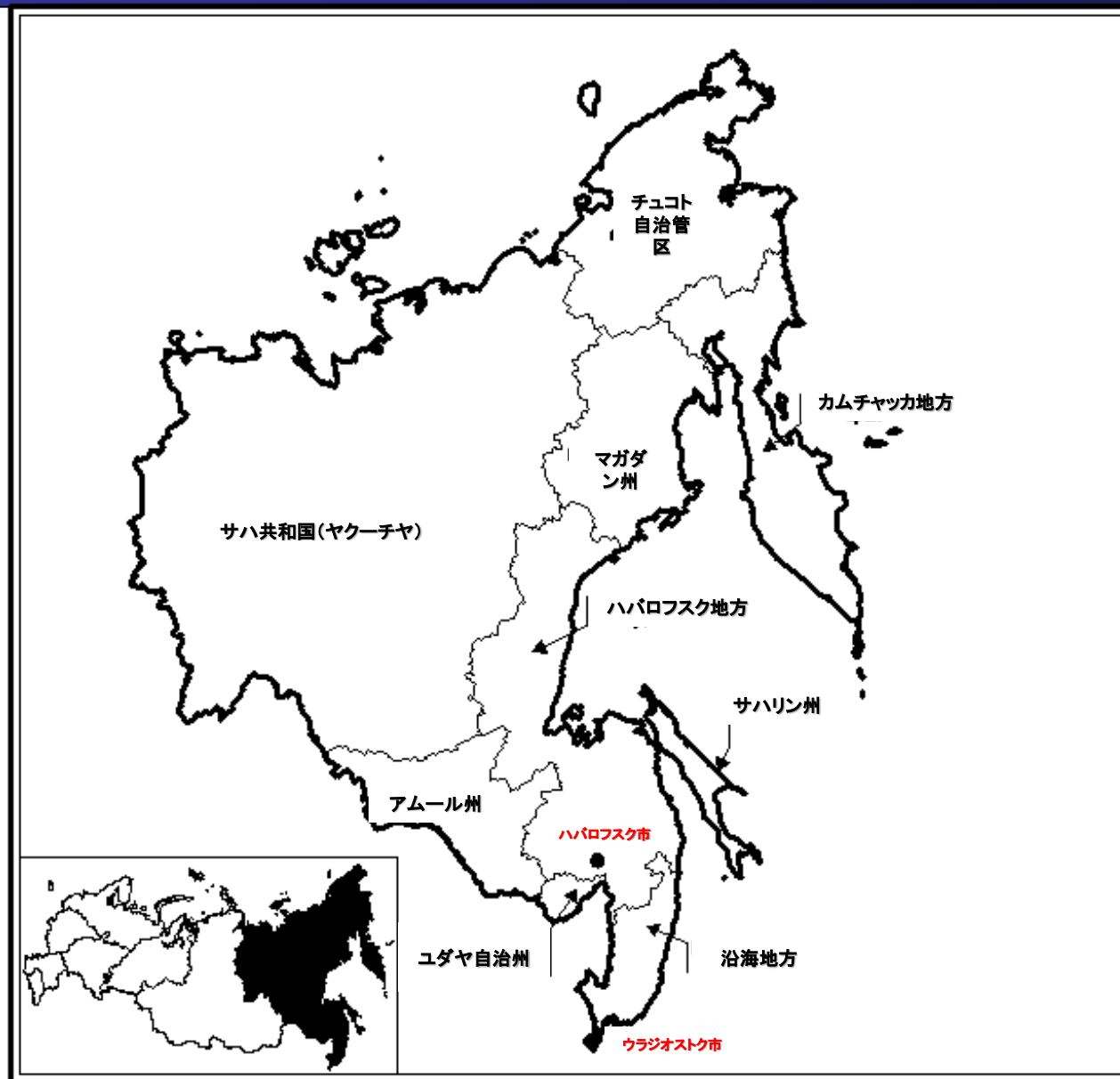
連邦管区とは
プーチン大統領が2000年に制定した行政区分。各連邦管区には大統領全権代表が置かれ、中央と地方のパイプ役を果たすことを目的としている。尚、各連邦管区の中には更に小さい行政区分である連邦構成主体(州など)が含まれる。

	面積(千km2)	<シェア>	人口(千人)	<シェア>	人口密度(人/km2)
全ロシア	17098	100	143056	100	8
中央連邦管区	650	4	38538	27	59
北西連邦管区	1687	10	13660	10	8
南連邦管区	421	2	13884	10	33
北カフカス連邦管区	170	1	9493	7	56
沿ボルガ連邦管区	1037	6	29811	21	29
ウラル連邦管区	1819	11	12143	8	7
シベリア連邦管区	5145	30	19261	13	4
極東連邦管区	6169	36	6266	4	1

<資料>ロシア統計年鑑。数字は2012/01/01現在。

I. 極東ロシアを定義する

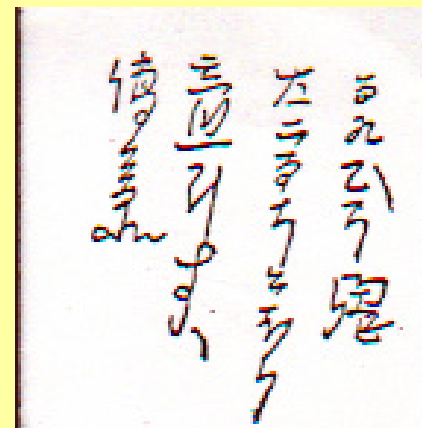
2. 極東連邦管区を構成する9つの連邦構成主体：概観



I. 極東ロシアを定義する

3. 極東ロシアの歴史: 日ロの最初の接点は1697年の極東ロシア

- 1581頃エルマークを長とする部隊がシベリアに派遣される(ロシアの東進開始)
- 1639 ロシア人、オホーツク海に到達
- 1697 日本人漂流民伝兵衛、カムチャッカ半島西岸で発見される(1702ピョートル1世謁見)
- 1734 ロシア初の日本に関する文献「日本誌」
- 1738 最初の露日辞典「新スラヴ・日本語辞典(ゴンザ編)」
- 1855 日露通好条約締結
- 1858 清と愛琿条約締結(アムール川左岸以北獲得、ウスリー川から海までの土地は共有)
- 1860 ウラジオストク建設、北京条約締結(ウスリー川以東の土地を領有)
- 1869 朝鮮北部の飢饉により沿海地方へ多数の朝鮮人移住
- 1871 極東の主港をニコラエフスクからウラジオストクに移転
- 1876 ウラジオストクに日本貿易事務官が置かれる
- 1890 チェーホフ、サハリン旅行
- 1891 ウラジオストクでシベリア鉄道起工式(1904年開通)
- 1900 義和団の反乱を受け、ロシア軍がブラゴベシェンスクで中国人虐殺
- 1906 日本、南満州鉄道株式会社設立
- 1937 極東の朝鮮人、中央アジアへの強制移住命令
- 1986 ゴルバチョフ、ウラジオストク演説(アフガンからの撤退を表明)
- 1992 ウラジオストクを対外開放
- 2000 プーチン、極東連邦管区設置
- 2003 小泉首相、日本の首相として初の極東ロシア(ハバロフスク)訪問



モスクワの中央古文書館に残る伝兵衛の自署

Ⅱ. ロシアの中の極東

1. 極東移住を奨励したソ連時代でも、極東の人口シェアは5%程度にとどまる

総人口は2010年から3年連続で増加するも極東の人口減に歯止めかからず

人口(万人)

	1926	1939	1959	1970	1979	1990	1996	2001	2006	2011	2012
全ロシア	9274	10838	11753	12994	13741	14767	14829	14630	14324	14287	14306
中央連邦管区	3201	3575	3346	3561	3666	3802	3819	3818	3811	3845	3854
北西連邦管区	854	1117	1148	1285	1406	1531	1475	1420	1372	1363	1366
南連邦管区	812	870	981	1176	1251	1332	1409	1406	1384	1385	1388
北カフカス連邦管区	349	427	453	593	654	737	837	870	904	944	949
沿ボルガ連邦管区	2426	2650	2768	2978	3071	3176	3205	3153	3045	2988	2981
ウラル連邦管区	495	631	912	1008	1085	1273	1261	1247	1213	1209	1214
シベリア連邦管区	979	1271	1663	1815	1924	2111	2088	2033	1950	1925	1926
極東連邦管区	157	298	483	578	685	805	736	683	646	629	627

シェア(全体=100)

	1926	1939	1959	1970	1979	1990	1996	2001	2006	2011	2012
全ロシア	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
中央連邦管区	34.5	33.0	28.5	27.4	26.7	25.7	25.8	26.1	26.6	26.9	26.9
北西連邦管区	9.2	10.3	9.8	9.9	10.2	10.4	9.9	9.7	9.6	9.5	9.5
南連邦管区	8.8	8.0	8.3	9.1	9.1	9.0	9.5	9.6	9.7	9.7	9.7
北カフカス連邦管区	3.8	3.9	3.9	4.6	4.8	5.0	5.6	5.9	6.3	6.6	6.6
沿ボルガ連邦管区	26.2	24.4	23.5	22.9	22.3	21.5	21.6	21.6	21.3	20.9	20.8
ウラル連邦管区	5.3	5.8	7.8	7.8	7.9	8.6	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5
シベリア連邦管区	10.6	11.7	14.2	14.0	14.0	14.3	14.1	13.9	13.6	13.5	13.5
極東連邦管区	1.7	2.7	4.1	4.4	5.0	5.4	5.0	4.7	4.5	4.4	4.4

<資料>ロシア統計年鑑

2. 極東の人口減少は自然減よりも社会減(移住)による部分が多い

	全ロシア			極東連邦管区			北カフカス連邦管区		
	人口千人当たり			人口千人当たり			人口千人当たり		
	出産	死亡	自然増減	出産	死亡	自然増減	出産	死亡	自然増減
1980	15.9	11.0	4.9	18.5	8.8	9.7	20.3	8.7	11.6
1990	13.4	11.2	2.2	15.4	8.2	7.2	20.1	9.0	11.1
1995	9.3	15.0	-5.7	10.4	12.8	-2.4	15.0	10.6	4.4
2000	8.7	15.3	-6.6	9.7	13.2	-3.5	12.1	10.2	1.9
2005	10.2	16.1	-5.9	11.6	15.5	-3.9	13.9	9.4	4.5
2010	12.5	14.2	-1.7	13.2	13.8	-0.6	17.3	8.6	8.7
2011	12.6	13.5	-0.9	13.2	13.5	-0.3	17.5	8.5	9.0

<資料>ロシア統計年鑑



人口増加が著しい地域。米
国におけるヒスパニックのよ
うな存在。

<資料>株式会社ナウカ出版「百万人のロシア語」

3. 相対的に若い極東の人口構成

人口(万人)				
	全人口	生産年齢以下人口	生産年齢人口	生産年齢以上人口
全ロシア	14306	2357	8706	3243
中央連邦管区	3854	544	2340	970
北西連邦管区	1366	200	838	328
南連邦管区	1388	225	831	333
北カフカス連邦管区	949	227	576	146
沿ボルガ連邦管区	2981	489	1803	689
ウラル連邦管区	1214	214	748	252
シベリア連邦管区	1926	348	1176	402
極東連邦管区	627	111	393	123
シェア(全人口=100)				
	全人口	生産年齢以下人口	生産年齢人口	生産年齢以上人口
全ロシア	100	16	61	23
中央連邦管区	100	14	61	25
北西連邦管区	100	15	61	24
南連邦管区	100	16	60	24
北カフカス連邦管区	100	24	61	15
沿ボルガ連邦管区	100	16	60	23
ウラル連邦管区	100	18	62	21
シベリア連邦管区	100	18	61	21
極東連邦管区	100	18	63	20

非常に若い人口構成

相対的に若い人口構成

<資料>ロシア統計年鑑。数字は2012/01/01現在。生産年齢人口は男性16-59歳、女性16-54歳。

II. ロシアの中の極東

4. 極東で働くインセンティブは長期低下傾向

月賃金(ルーブル、但し1995年は1000ルーブル)

	1995	2000	2005	2007	2008	2009	2010	2011
全ロシア	472	2223	8555	13593	17290	18638	20952	23369
中央連邦管区	419	2173	9622	15877	20666	22405	25377	28449
北西連邦管区	529	2532	9487	15256	19396	20893	23532	25776
南連邦管区	339	1587	6204	9875	12514	14066	15560	17237
北カフカス連邦管区	254	1213	4785	7735	9862	11432	12569	13898
沿ボルガ連邦管区	389	1783	6473	10347	13210	13987	15614	17544
ウラル連邦管区	670	3487	11680	17838	21826	22269	25035	28055
シベリア連邦管区	553	2270	8110	12345	15381	16606	18658	20890
極東連邦管区	807	3114	11508	16713	20778	23158	25814	29320

全ロシアを100として換算

	1995	2000	2005	2007	2008	2009	2010	2011
全ロシア	100	100	100	100	100	100	100	100
中央連邦管区	89	98	112	117	120	120	121	122
北西連邦管区	112	114	111	112	112	112	112	110
南連邦管区	72	71	73	73	72	75	74	74
北カフカス連邦管区	54	55	56	57	57	61	60	59
沿ボルガ連邦管区	82	80	76	76	76	75	75	75
ウラル連邦管区	142	157	137	131	126	119	119	120
シベリア連邦管区	117	102	95	91	89	89	89	89
極東連邦管区	171	140	135	123	120	124	123	125

<資料>ロシア統計年鑑

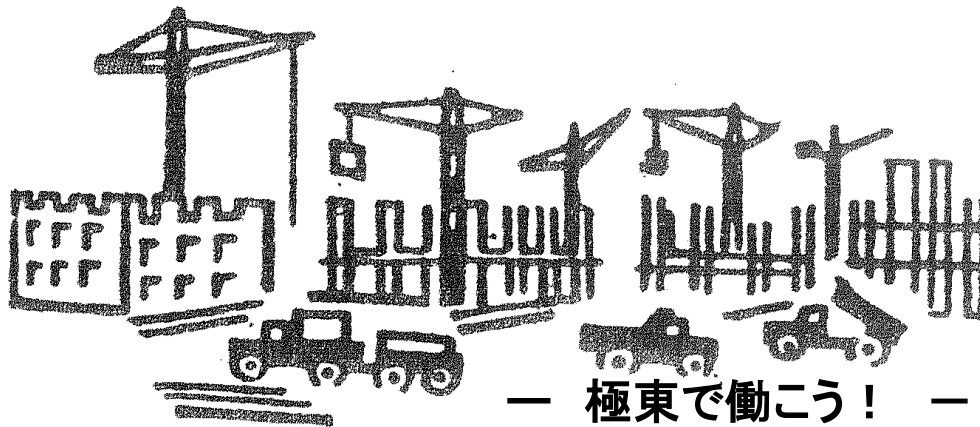
金銭月収(ルーブル、但し1995年は1000ルーブル)

	1995	2000	2005	2007	2008	2009	2010	2011
全ロシア	516	2281	8088	12540	14864	16895	18951	20755
中央連邦管区	692	3231	10902	16631	18590	21931	24645	27091
北西連邦管区	565	2269	8996	13163	14915	17390	19837	21156
南連邦管区	309	1592	5757	9277	11423	12929	15114	16584
北カフカス連邦管区	-	1130	4537	7548	9675	11402	13253	15050
沿ボルガ連邦管区	369	1726	6229	9959	12392	13962	15840	17282
ウラル連邦管区	605	2744	9581	15222	18952	20073	21742	23638
シベリア連邦管区	494	1933	6731	10414	13045	13714	15007	16568
極東連邦管区	649	2498	8989	13597	15916	18762	20807	22870

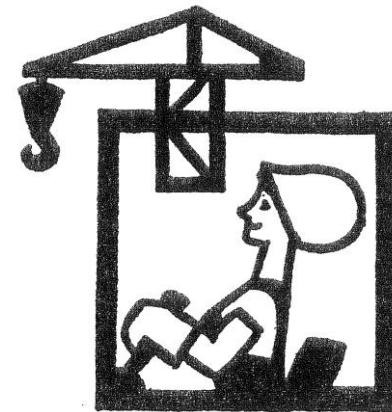
全ロシアを100として換算

	1995	2000	2005	2007	2008	2009	2010	2011
全ロシア	100	100	100	100	100	100	100	100
中央連邦管区	134	142	135	133	125	130	130	131
北西連邦管区	109	99	111	105	100	103	105	102
南連邦管区	60	70	71	74	77	77	80	80
北カフカス連邦管区	-	50	56	60	65	67	70	73
沿ボルガ連邦管区	72	76	77	79	83	83	84	83
ウラル連邦管区	117	120	118	121	128	119	115	114
シベリア連邦管区	96	85	83	83	88	81	79	80
極東連邦管区	126	109	111	108	107	111	110	110

<資料>ロシア統計年鑑



<資料>株式会社ナウカ出版「百万人のロシア語」



II. ロシアの中の極東

5. 極東では生活費も高い

		最低限月間生活費(ルーブル)				最低限月間生活費(全ロシア=100)			
		全体平均	<生産年齢人口>	<年金生活者>	<子供>	全体平均	<生産年齢人口>	<年金生活者>	<子供>
全ロシア		6,209	6,710	4,902	5,993	100	100	100	100
モスクワ市		9,128	10,346	6,213	7,825	147	154	127	131
極東連邦管区諸州	サハ共和国	10,028	10,859	8,176	9,265	162	162	167	155
	カムチャッカ地方	12,584	13,139	10,489	12,013	203	196	214	200
	沿海地方	7,336	7,918	5,822	7,125	118	118	119	119
	ハバロフスク地方	9,039	9,701	7,283	8,518	146	145	149	142
	アムール州	7,950	8,475	6,337	7,601	128	126	129	127
	マガダン州	10,249	10,837	8,016	10,099	165	162	164	169
	サハリン州	9,864	10,358	8,140	9,452	159	154	166	158
	ユダヤ自治州	7,394	7,802	6,072	7,167	119	116	124	120
チュコト自治管区		11,428	11,660	9,547	11,359	184	174	195	190

<資料>ロシア統計年鑑。数字は2011年第4半期現在。生産年齢人口は男性16-59歳、女性16-54歳。



— 極東の冬は寒い... —

<資料>株式会社ナウカ出版「百万人のロシア語」

6. 極東のGDPシェアは2008年頃に底打ちの後、上昇傾向

ロシアの地域別名目GDPシェア(全ロシア=100)

	1995	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
全ロシア	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
中央連邦管区	22.1	28.2	31.1	32.0	31.3	32.9	33.3	33.1	34.8	35.4	36.5	37.4	35.6	35.7
北西連邦管区	9.7	10.7	10.5	10.1	9.9	10.1	10.2	10.6	10.0	9.8	9.9	10.0	10.7	10.4
南連邦管区	5.6	6.0	6.0	5.7	5.9	5.9	5.7	5.5	5.2	5.3	5.6	5.9	6.2	6.1
北カフカス連邦管区	2.0	2.2	1.9	1.8	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.1	2.5	2.4
沿ボルガ連邦管区	18.6	19.1	18.4	18.0	18.0	17.0	16.8	16.4	15.5	15.6	15.5	15.7	15.4	15.1
ウラル連邦管区	12.8	14.0	13.7	15.1	15.6	15.3	15.4	16.0	17.1	16.5	15.1	14.2	13.6	13.6
シベリア連邦管区	13.8	13.4	12.2	11.9	11.8	11.3	11.3	11.7	10.8	10.9	10.7	10.2	10.6	10.9
極東連邦管区	5.5	6.4	6.1	5.4	5.5	5.4	5.2	4.9	4.6	4.4	4.6	4.5	5.4	5.6
極東連邦管区諸州	サハ共和国	1.4	1.5	1.6	1.4	1.4	1.3	1.2	1.1	1.0	0.9	0.9	1.0	1.0
	カムチャッカ地方	0.4	0.5	0.4	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2	0.3	0.3
	沿海地方	1.3	1.4	1.4	1.1	1.0	1.1	1.1	1.0	1.0	0.9	0.9	1.2	1.2
	ハバロフスク地方	1.0	1.3	1.1	1.1	1.1	1.2	1.1	0.9	0.9	0.8	0.8	0.9	0.9
	アムール州	0.6	0.6	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.4	0.4	0.4	0.4	0.5	0.5
	マガダン州	0.2	0.3	0.3	0.2	0.2	0.3	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2
	サハリン州	0.5	0.6	0.7	0.6	0.7	0.5	0.6	0.7	0.7	1.0	1.0	1.2	1.3
	ユダヤ自治州	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
	チュコト自治管区	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1

<資料>ロシア統計年鑑、ロシア国家統計局HP

極東連邦管区の名目GDPシェアは2008年頃に底を打った後、上昇傾向に。上昇に寄与しているのは、**沿海地方とサハリン州**。沿海地方はAPEC向け投資、サハリン州は石油・ガス輸出が寄与していると考えられる。サハリン州の名目GDPシェアは長期的に上昇しており、**外資導入の好影響が顕在化**している。

II. ロシアの中の極東

7. 極東において重要性の高い産業は鉱業・建設・運輸通信

2010年の名目GDPに占める地域・産業別シェア(全ロシア=100)

	農業	漁業	鉱業	製造業	インフラ	建設	商業	宿泊・外食	運輸通信	金融	不動産	政府・国防	教育	福祉・保健	その他	小計
全ロシア	4.2	0.3	10.5	17.7	4.5	6.9	19.3	1.0	10.5	0.6	11.2	5.0	3.1	3.8	1.4	100.0
中央連邦管区	0.8	0.0	0.3	5.9	1.6	1.6	10.9	0.4	3.4	0.3	5.9	1.6	1.0	1.3	0.8	35.7
北西連邦管区	0.3	0.1	0.8	2.3	0.5	1.0	1.5	0.1	1.2	0.1	1.2	0.6	0.4	0.5	0.2	10.4
南連邦管区	0.7	0.0	0.1	1.0	0.2	0.7	1.0	0.1	0.8	0.0	0.5	0.4	0.2	0.3	0.1	6.1
北カフカス連邦管区	0.3	0.0	0.0	0.2	0.1	0.3	0.5	0.1	0.2	0.0	0.1	0.2	0.1	0.1	0.0	2.4
沿ボルガ連邦管区	0.9	0.0	1.9	3.5	0.8	1.0	2.1	0.2	1.5	0.1	1.3	0.7	0.5	0.6	0.2	15.1
ウラル連邦管区	0.3	0.0	4.5	2.1	0.5	1.0	1.5	0.1	1.2	0.0	1.1	0.4	0.3	0.4	0.1	13.6
シベリア連邦管区	0.7	0.0	1.5	2.4	0.5	0.6	1.3	0.1	1.3	0.0	0.8	0.7	0.4	0.5	0.1	10.9
極東連邦管区	0.2	0.2	1.4	0.3	0.2	0.7	0.6	0.0	0.8	0.0	0.3	0.4	0.2	0.2	0.1	5.6
極東連邦管区諸州	サハ共和国	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	1.0
	カムチャツカ地方	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
	沿海地方	0.0	0.1	0.0	0.1	0.1	0.2	0.0	0.3	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	1.2
	ハバロフスク地方	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.2	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.9
	アムール州	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5
	マガダン州	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2
	サハリン州	0.0	0.0	0.8	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3
	ユダヤ自治州	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
	チュコト自治管区	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1

<資料>ロシア統計年鑑に基づき筆者算出

極東連邦管区において重要性が高い産業は**鉱業・建設・運輸通信**。鉱業についてはサハ共和国とサハリン州が貢献。建設については沿海地方におけるAPEC向け建設、運輸通信についても沿海地方における輸送インフラの貢献が大きいと考えられる。ロシアにおける極東漁業の存在は大きい、漁業全体の経済規模(全GDPの0.3%)は小さい。尚、ロシア全体で見ればやはりモスクワ市を含む中央連邦管区の存在感が圧倒的に大きい、沿ボルガ連邦管区の製造業(石油・石炭加工や石油化学、自動車関連に特徴)、ウラル連邦管区の鉱業(チェリャビンスクなどエネルギー採掘が盛ん)といった特徴的な地方都市も存在する。

8. 石炭はサハ共和国・沿海地方に、石油・天然ガスはサハリン州に

2010年の地域別エネルギー生産量

	石炭(千トン)	石油(千トン)	天然ガス(百万m ³)
全ロシア	321,701	505,326	651,323
中央連邦管区	235	0	0
北西連邦管区	13,625	32,165	4,318
南連邦管区	4,725	8,942	16,266
北カフカス連邦管区	0	2,226	1,165
沿ボルガ連邦管区	387	107,255	24,364
ウラル連邦管区	2,154	307,051	572,295
シベリア連邦管区	268,902	29,404	6,410
極東連邦管区	31,673	18,283	26,505
極東連邦管区諸州	サハ共和国	11,100	3,500
	カムチャツカ地方	41	—
	沿海地方	10,400	—
	ハバロフスク地方	—	—
	アムール州	3,000	—
	マガダン州	445	—
	サハリン州	3,700	14,800
	ユダヤ自治州	—	—
	チュコト自治管区	388	—

エネルギー産業の中心は沿ボルガ・ウラル・シベリア

<資料>ロシアの鉱工業、ロシアの地域(いずれもロシア国家統計局)

Ⅱ. ロシアの中の極東

9. 相対的に弱い極東の製造業

2011年の地域別製造業出荷高シェア(金額ベース、全ロシア=100)

	製造業	食品	繊維	皮革	木製品	紙・印刷	石炭・石油製品	化学製品	ゴム・プラスチック	非金属鉱物	金属	機械設備	電気機械	輸送機器	その他
全ロシア	100.0	15.8	0.9	0.2	1.3	3.0	19.9	7.9	2.5	4.5	17.7	5.4	5.8	10.3	2.3
中央連邦管区	29.7	6.1	0.5	0.1	0.3	1.2	4.5	2.0	1.0	1.7	3.2	2.1	2.4	2.4	0.9
北西連邦管区	15.0	2.5	0.1	0.0	0.4	0.9	3.2	0.8	0.2	0.5	2.1	0.7	1.0	2.3	0.3
南連邦管区	5.8	1.5	0.1	0.0	0.0	0.1	1.4	0.3	0.2	0.4	0.9	0.3	0.1	0.4	0.1
北カフカス連邦管区	1.1	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.0
沿ボルガ連邦管区	22.6	2.4	0.2	0.0	0.2	0.4	5.3	3.6	0.7	0.8	2.3	1.1	1.3	3.5	0.5
ウラル連邦管区	13.1	0.8	0.0	0.0	0.1	0.1	3.4	0.2	0.1	0.6	5.4	0.7	0.5	0.6	0.2
シベリア連邦管区	11.0	1.5	0.0	0.0	0.2	0.3	2.1	0.7	0.3	0.4	3.5	0.5	0.4	0.7	0.2
極東連邦管区	1.6	0.6	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.0	0.4	0.1
極東連邦管区諸州															
サハ共和国	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
カムチャッカ地方	0.2	0.2	0.0	—	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
沿海地方	0.6	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0
ハバロフスク地方	0.5	0.1	0.0	—	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0
アムール州	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
マガダン州	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
サハリン州	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ユダヤ自治州	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
チュコト自治管区	0.0	0.0	—	—	—	0.0	—	0.0	—	—	—	—	—	0.0	0.0

<資料>ロシア統計年鑑に基づき筆者算出

極東連邦管区の製造業は相対的に弱く、沿海地方等の食品・輸送機器くらいしかめぼしいものは無い(但し戦闘機やヘリコプターなど軍需産業は存在)。一方、ロシア全体に目を向けると、食品(中央連邦管区)、石炭・石油製品(沿ボルガ連邦管区)、金属(ウラル連邦管区)など比較的加工度が低い製造業が盛ん。また輸送機器については、沿ボルガ地方の存在感が大きい。

Ⅱ. ロシアの中の極東

10-1. 極東の農業は弱い、じゃがいもや野菜の生産は比較的多い

極東連邦管区の農業生産高シェア(数量ベース、全ロシア=100)

	96-00	01-05	06-10	2008	2009	2010	2011
穀物	0.7	0.5	0.6	0.5	0.6	0.5	0.7
ひまわり種	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
じゃがいも	4.3	4.8	4.6	4.6	4.1	6.1	3.9
野菜	3.9	3.6	3.1	3.0	2.9	3.3	2.9
畜産	2.1	1.9	1.8	1.8	1.8	1.7	1.7
牛乳	2.1	1.9	1.8	1.8	1.8	1.9	1.8
鶏卵	2.5	2.7	2.9	2.9	2.9	2.9	2.8

<資料>ロシア統計年鑑

極東連邦管区での大豆生産量(千トン)

	1990	1995	2000	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
サハ共和国	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
カムチャツカ地方	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
沿海地方	102.8	55.7	61.2	22.7	68.6	113.4	130.9	133.3	82.4	110.3	133.6	152.2
ハバロフスク地方	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
アムール州	468.6	170.4	168.5	265.4	156.2	178.4	191.9	239.7	261.5	323.8	435.6	569.9
マガダン州	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
サハリン州	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ユダヤ自治州	30.5	12.9	18.1	7.4	20.2	33.6	59.2	64.1	62.1	66.4	45.9	79.7
チュコト自治管区	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

<資料>ロシアの地域(ロシア国家統計局)

10-2. 極東は大豆の生産地。また沿海地方でソバを栽培する日本企業も。

- 極東、特にアムール州は大豆の生産地（2010年のアムール州の生産量は57万トン。因みに日本の2011年生産量は22万トン）。非遺伝子組換大豆の割合が高い点がセールスポイント。
- 既にアムール州では中国への大豆輸出実績有。中国ではこの大豆から絞った植物油に「ハラソ（ロシア語で“良い”という意味）」というブランド名を冠して販売。
- またイービストレード社（東京都千代田区）は沿海地方でソバを栽培。2012年は200ha弱の耕地で200t程度の収穫。2013年是对日輸出を予定。5年後には3万haまで拡大し、日本の需要の2割もの生産を目指す。
- ロシアでは外国人は農地を借りることしかできないが、借地料は数十ドル/haと総じて安い。但し冬季は営農できないなどの難点も。

11. ビッグイベントによる投資誘発効果は大きい

固定資本投資シェア(金額ベース、全ロシア=100)

		1995	2000	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
全ロシア		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
中央連邦管区		24.0	26.1	26.7	25.9	26.5	25.9	24.2	23.0	21.9
北西連邦管区		9.0	10.0	13.4	13.8	12.4	11.9	11.7	12.4	11.7
南連邦管区		6.8	9.3	6.8	6.9	7.4	8.0	8.9	9.8	9.5
北カフカス連邦管区		4.7	2.2	2.6	2.7	3.0	3.0	3.3	3.4	3.2
沿ボルガ連邦管区		18.7	17.7	16.9	16.6	17.1	16.9	16.0	15.8	15.6
ウラル連邦管区		18.9	21.5	16.4	16.9	16.6	16.9	16.8	16.3	17.4
シベリア連邦管区		12.6	8.5	9.6	10.2	10.6	10.8	10.5	10.7	11.3
極東連邦管区		5.2	4.6	7.7	7.0	6.5	6.7	8.6	8.6	9.4
極東連邦管区	サハ共和国	1.5	1.4	1.4	1.2	1.8	1.8	2.4	1.4	1.5
	カムチャッカ地方	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2	0.3	0.4	0.3
	沿海地方	1.1	0.6	0.8	0.7	0.7	0.9	1.9	2.3	2.6
	ハバロフスク地方	0.7	1.0	1.1	1.0	1.0	1.0	1.2	1.7	1.6
	アムール州	0.7	0.3	0.7	0.6	0.7	0.8	0.8	0.9	1.1
	マガダン州	0.2	0.2	0.1	0.2	0.1	0.2	0.2	0.2	0.2
	サハリン州	0.6	0.7	3.1	2.9	1.8	1.7	1.5	1.5	1.7
	ユダヤ自治州	0.1	0.0	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2
	チュコト自治管区	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1

<資料>ロシア統計年鑑

南連邦管区(ソチオリンピック)、極東連邦管区(APEC)などイベント効果は大きい。

12. 極東では鉱業・運輸通信への投資が盛ん

地域別・産業別固定資本投資シェア(2011年、金額ベース、全ロシア=100)

	農林・狩猟	漁業	鉱業	製造業	インフラ	建設	商業	宿泊・外食	運輸通信	金融	不動産	政府・国防	教育	福祉・保健	その他サービス	小計
全ロシア	3.5	0.1	14.6	12.8	9.4	3.1	3.2	0.5	27.7	1.6	15.2	1.5	1.8	2.0	2.9	100.0
中央連邦管区	0.9	0.0	0.1	2.7	2.8	0.3	0.8	0.2	4.1	0.6	2.4	0.3	0.4	0.4	0.5	16.4
北西連邦管区	0.2	0.0	0.9	1.7	1.1	0.4	0.2	0.0	4.3	0.1	0.7	0.3	0.1	0.2	0.2	10.4
南連邦管区	0.3	0.0	0.2	1.1	0.9	0.1	0.3	0.1	2.4	0.1	0.5	0.1	0.2	0.3	0.6	7.1
北カフカス連邦管区	0.1	0.0	0.0	0.2	0.2	0.1	0.0	0.0	0.3	0.0	0.2	0.1	0.1	0.1	0.0	1.5
沿ボルガ連邦管区	0.5	0.0	1.1	2.8	0.9	0.2	0.2	0.0	2.5	0.1	0.9	0.2	0.3	0.3	0.4	10.6
ウラル連邦管区	0.2	0.0	6.9	1.4	1.4	0.3	0.1	0.0	2.7	0.3	0.9	0.1	0.2	0.2	0.2	14.9
シベリア連邦管区	0.3	0.0	2.2	1.5	1.0	0.1	0.2	0.0	1.5	0.1	0.7	0.2	0.2	0.3	0.2	8.5
極東連邦管区	0.1	0.0	1.8	0.3	0.8	0.2	0.0	0.0	4.1	0.1	0.4	0.1	0.4	0.1	0.1	8.6
極東連邦管区諸州	サハ共和国	0.0	0.0	0.3	0.0	0.3	0.1	0.0	0.5	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4
	カムチャッカ地方	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2
	沿海地方	0.0	0.0	0.0	0.1	0.3	0.0	0.0	1.4	0.0	0.1	0.0	0.3	0.0	0.1	2.4
	ハバロフスク地方	0.0	0.0	0.1	0.2	0.1	0.0	0.0	1.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	1.6
	アムール州	0.0	—	0.2	0.0	0.1	0.0	0.0	0.6	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
	マガダン州	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
	サハリン州	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6
	ユダヤ自治州	0.0	—	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2
	チュコト自治管区	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1

<資料>ロシア統計年鑑

全ロシアでは鉱業・運輸通信・不動産への投資が大きい。沿ボルガなどでは製造業投資も大きい。極東では全般的に運輸通信、サハリン州の鉱業への投資が盛ん。

Ⅱ. ロシアの中の極東

13-1. 極東への対内直接投資: 近年ではインドからの安定的投資に注目

極東連邦管区への国別対内直接投資(フローおよび累計、上位20ヶ国、千ドル)

	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011		累計
オランダ	3,267,798	—	3,478,203	3,387,433	2,522,027	9,177	150,224	1,500,665	オランダ	10,106,846
キプロス	25,735	—	32,456	50,103	62,384	232,501	159,164	699,162	インド	2,635,943
インド	0	—	345,860	219,153	311,545	395,848	506,980	574,447	キプロス	2,109,703
バハマ諸島	—	—	—	226,984	490,829	613,334	150,667	161,077	バハマ諸島	1,755,930
カナダ	—	—	66,519	73,002	59,592	5,206	3,287	69,926	ドイツ	297,073
中国	2,731	—	9,849	18,671	13,127	24,808	28,318	54,621	中国	163,299
英国	42,050	—	66,479	44,791	79,190	166,785	93,711	35,769	カナダ	155,619
マレーシア	6,200	—	730	—	—	—	—	23,701	日本	112,858
日本	35,159	—	11,011	11,844	19,720	23,484	39,811	18,817	韓国	98,469
韓国	3,280	—	8,011	19,135	5,466	19,538	3,348	16,878	英国	94,560
バージン諸島	20	—	8	104	376,583	5,280	23,716	16,776	マレーシア	86,251
アイルランド	—	—	—	—	—	—	—	10,890	バージン諸島	50,305
シンガポール	—	—	—	1	403	1,158	3,050	2,700	米国	43,825
米国	10,564	—	6,687	14,804	20,381	1,216	5,039	2,079	シンガポール	30,842
香港	—	—	—	564	127	—	2,626	305	アイルランド	18,632
北朝鮮	196	—	—	—	—	0	—	259	UAE	14,745
ドイツ	68	—	87	129	183	162	127	101	香港	12,949
アゼルバイジャン	—	—	—	—	—	—	26	10	セイシェル諸島	3,880
ウクライナ	12	—	—	5	—	10	2	8	モルディブ	778
ポーランド	—	—	—	—	—	—	—	3	北朝鮮	609
総額	3,396,473	3,942,334	4,027,096	4,071,604	4,171,358	1,499,812	1,170,321	3,188,199	総額	17,795,670

<資料>ロシア国家統計局

近年インドからの投資が安定的に増加。日本の投資は技術的要因により過少評価されている。

Ⅱ. ロシアの中の極東

13-2. 極東への対内直接投資：鉱業への投資が約9割

極東連邦管区への産業別対内直接投資（累計、上位20ヶ国、千ドル）

	農林	水産	鉱業	製造	インフラ	建設	商業	宿泊・外食	運輸通信	金融	不動産	公共	教育	保健	その他
オランダ	—	—	10,101,775	—	—	—	—	—	2	—	1,139	—	—	3,930	—
インド	—	—	2,618,729	16,474	—	—	740	0	—	—	—	—	—	—	—
キプロス	24,511	—	969,622	48,502	—	59,541	3,094	—	30,951	1,680	971,800	—	0	—	—
バハマ諸島	—	—	1,558,019	789	—	—	0	—	197,122	—	—	—	—	—	—
ドイツ	—	—	—	1,030	—	—	53	—	2	294,605	1,383	—	0	—	—
中国	17,896	1	57,989	37,466	—	22,253	15,570	6,598	238	136	4,849	—	—	4	299
カナダ	21,252	—	133,564	0	—	0	54	—	—	—	735	—	13	—	—
日本	47,361	65	240	31,922	—	146	3,458	—	16,127	—	13,520	—	—	19	0
韓国	15,762	16,990	1,865	5,372	14	15,875	2,813	1,977	24,173	4	12,860	—	294	0	469
英国	—	—	77,164	3	—	1	—	1	0	—	17,390	—	—	—	—
マレーシア	—	—	—	86,251	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
バージン諸島	—	—	3,499	953	813	99	0	16	34,875	1,370	8,678	—	—	—	—
米国	131	—	1,375	653	—	52	6,686	2	20,680	—	13,915	—	169	—	160
シンガポール	24,871	—	—	5,180	—	0	361	—	10	—	420	—	—	—	—
アイルランド	—	—	18,632	—	—	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—
UAE	—	—	—	14,745	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
香港	—	—	—	—	—	—	4	—	0	—	12,945	—	—	—	—
セイシェル諸島	—	—	—	2,656	—	—	0	—	—	—	1,224	—	—	—	—
モルディブ	—	—	—	778	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
北朝鮮	532	1	—	9	—	56	10	0	1	—	0	—	—	—	—
合計	152,316	17,057	15,542,473	252,784	827	98,024	32,844	8,596	324,182	297,796	1,060,860	0	476	3,953	928

<資料>ロシア国家統計局

2009年以降オランダからの投資（サハリン2関連が中心とみられる）減速。一方、**インドからの投資は安定的に増加**。日本の鉱業部門への投資は実際にはもっと大きい。鉱業部門に対内直接投資が集中する一方、韓国は比較的バランス良く投資。またドイツは金融部門への投資が大きい。中国からの対内直接投資は中国からの労働力流入を懸念する声も一部にある。

Ⅲ. 資源依存は悪か？オーストラリアン・パラドックスに学ぶ。

1. オーストラリアン・パラドックス：過去32年間の成長は先進国中最も安定的

OECD加盟国の実質GDP成長率安定度（対象は1980-2011年、変動係数＝標準偏差÷平均）

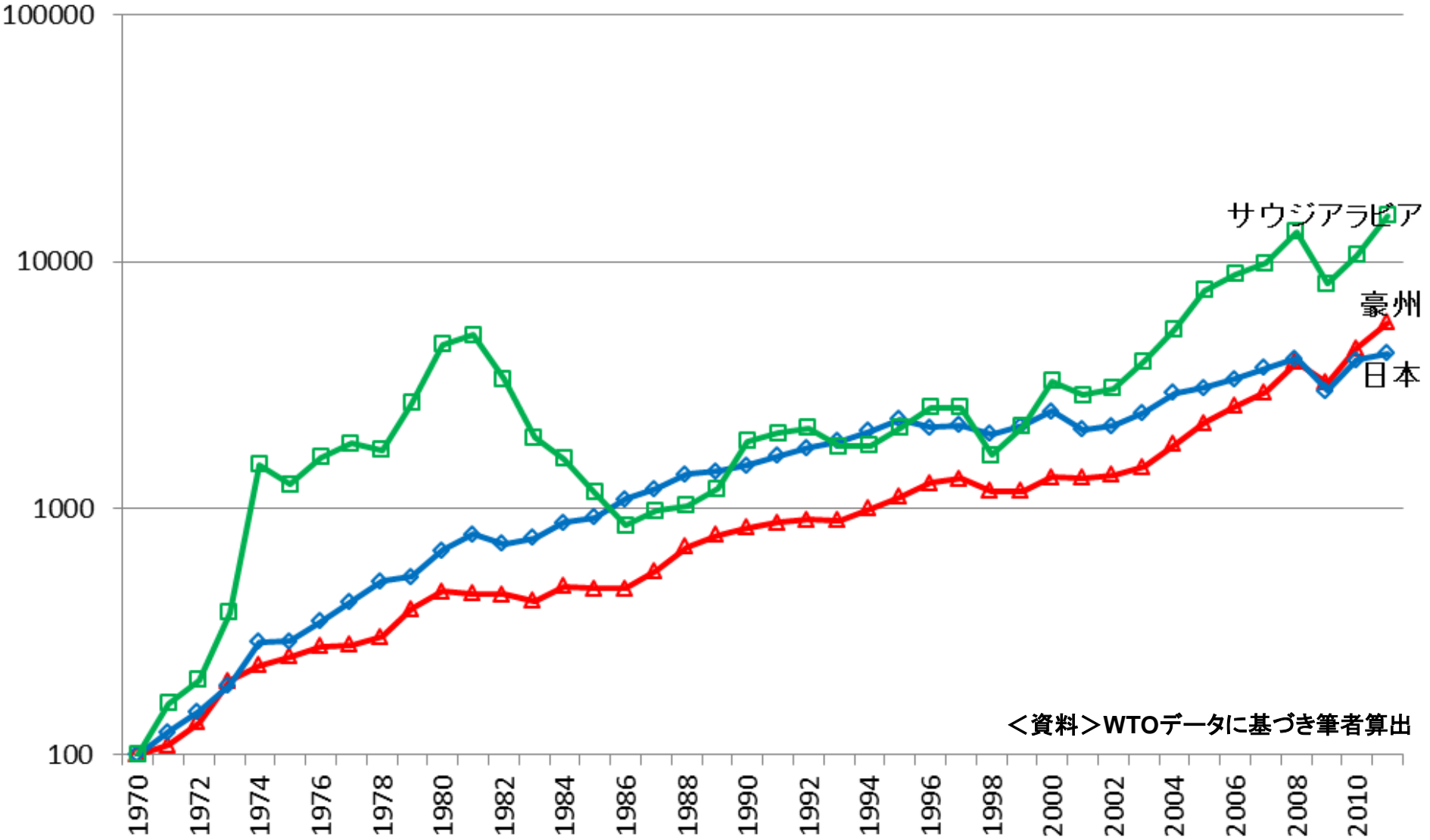
		標準偏差	平均	変動係数	第1次産業比率			標準偏差	平均	変動係数	第1次産業比率
1	豪州	1.7	3.2	0.5	13.3	16	スウェーデン	2.3	2.3	1.0	4.4
2	イスラエル	2.5	4.3	0.6	3.7	17	チリ	4.6	4.7	1.0	18.6
3	韓国	4.1	6.5	0.6	1.0	18	トルコ	4.5	4.3	1.0	12.4
4	ノルウェイ	1.8	2.6	0.7	8.1	19	ポルトガル	2.7	2.5	1.1	5.9
5	オーストリア	1.6	2.1	0.7	4.9	20	ドイツ	2.0	1.8	1.2	3.8
6	ルクセンブルク	3.3	4.2	0.8	11.1	21	日本	2.6	2.1	1.2	3.5
7	フランス	1.4	1.8	0.8	4.3	22	デンマーク	2.2	1.7	1.3	5.5
8	米国	2.1	2.6	0.8	4.5	23	アイスランド	3.6	2.7	1.3	10.1
9	ベルギー	1.6	2.0	0.8	4.3	24	フィンランド	3.2	2.4	1.3	5.9
10	スペイン	2.1	2.5	0.8	6.3	25	イタリア	1.8	1.3	1.4	4.8
11	カナダ	2.2	2.5	0.9	11.9	26	メキシコ	3.7	2.7	1.4	9.4
12	英国	2.2	2.4	0.9	6.8	27	ポーランド	4.5	2.4	1.9	6.3
13	ニュージーランド	2.1	2.3	0.9	24.1	28	ギリシャ	2.9	1.4	2.0	7.2
14	アイルランド	3.6	3.9	0.9	1.2	29	ハンガリー	3.5	1.2	2.9	8.4
15	スイス	1.7	1.8	1.0	3.1						

<資料> 国連、IMFの資料を基に筆者算出。第1次産業は農林水産業、狩猟業、鉱業、インフラを含む。

OECD加盟国のうち1980-2011年の実質GDP成長率データが入手可能な29ヶ国につき、32年間の実質GDP成長率の標準偏差・平均・変動係数（標準偏差÷平均）を算出。すると高い第1次産業比率にもかかわらず、豪州の変動係数は最小（名付けて「オーストラリアン・パラドックス」）。

2. 資源国ながら安定した豪州の輸出

豪州・サウジアラビア・日本の輸出額の推移(1970=100、対数目盛)

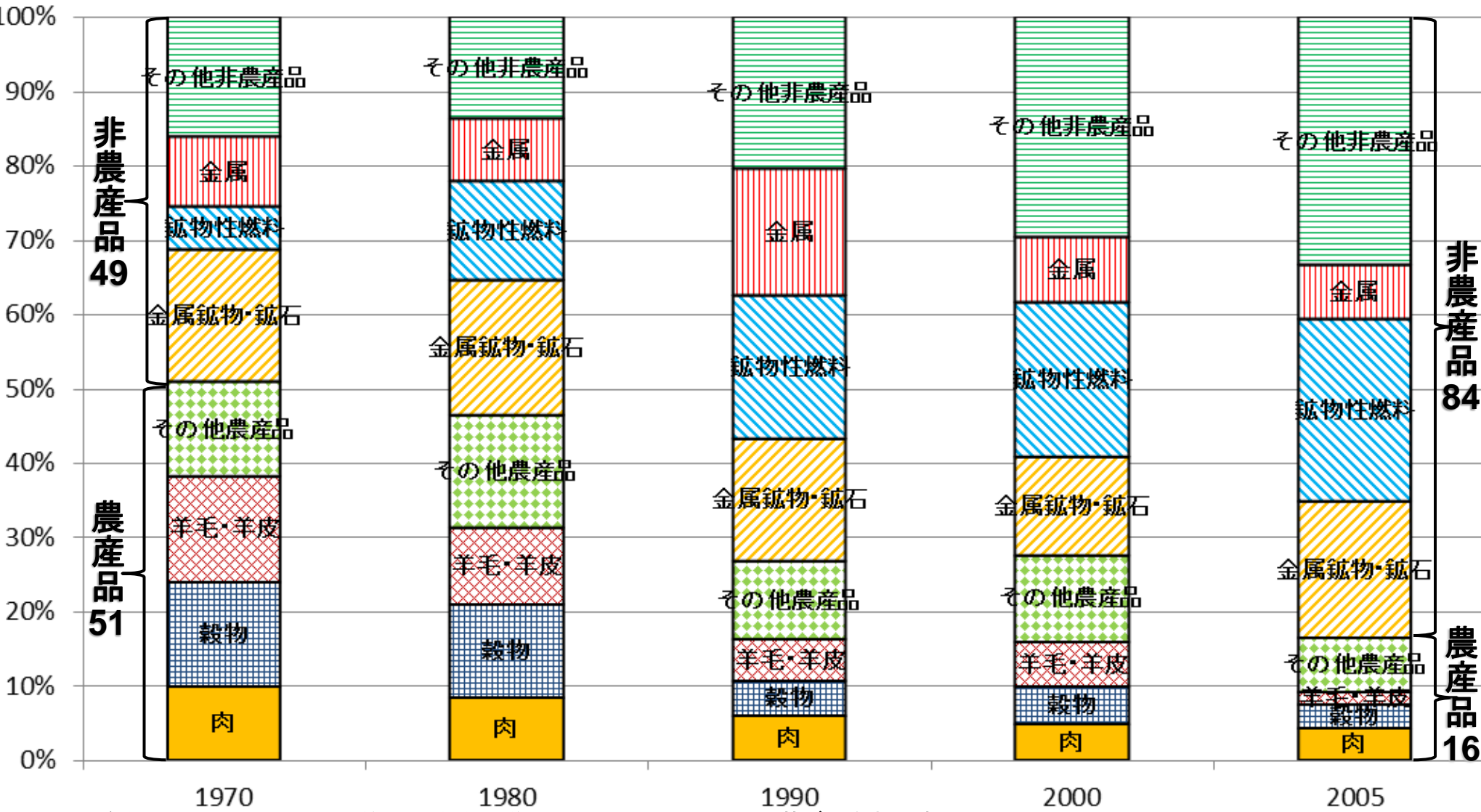


<資料>WTOデータに基づき筆者算出

Ⅲ. 資源依存は悪か？オーストラリアン・パラドックスに学ぶ。

3. 資源ポートフォリオを形成し、安定輸出を実現した豪州

豪州の輸出品目構成の推移(全体＝100%)



<資料>オーストラリア入門 第2版(東京大学出版会、2007年) P299に基づき筆者作成

4. 豪州経済発展の理由：極東ロシアは豪州に学ぶべき

1. 輸出一次産品と輸出先の多様化

輸出一次産品＝農産品（羊毛・小麦・食肉）と非農産品（金・銅・アルミ・石炭・鉄鉱石）

輸出先＝英国・日本・NIEs・ASEAN・インド・中国

2. 高い供給能力

水資源は不足しているが、機械化を伴う効率的な粗放農業を可能にする広い国土

3. 製造業とサービス業による輸出

アルミニウムなど資源加工産業や加工食品産業は高い競争力。プレジャーボート、アルミ使用の高速船など、ライフスタイルを通じた差別化。原材料調達の有利性を活かして特化した造船。農業研究の成果を引き継いだバイオ研究。留学生受入（小麦の2倍、牛肉の3倍の輸出額）。

4. 透明性の高い安定した政治と、その結果としての低い投資リスク

5. オープンな政策

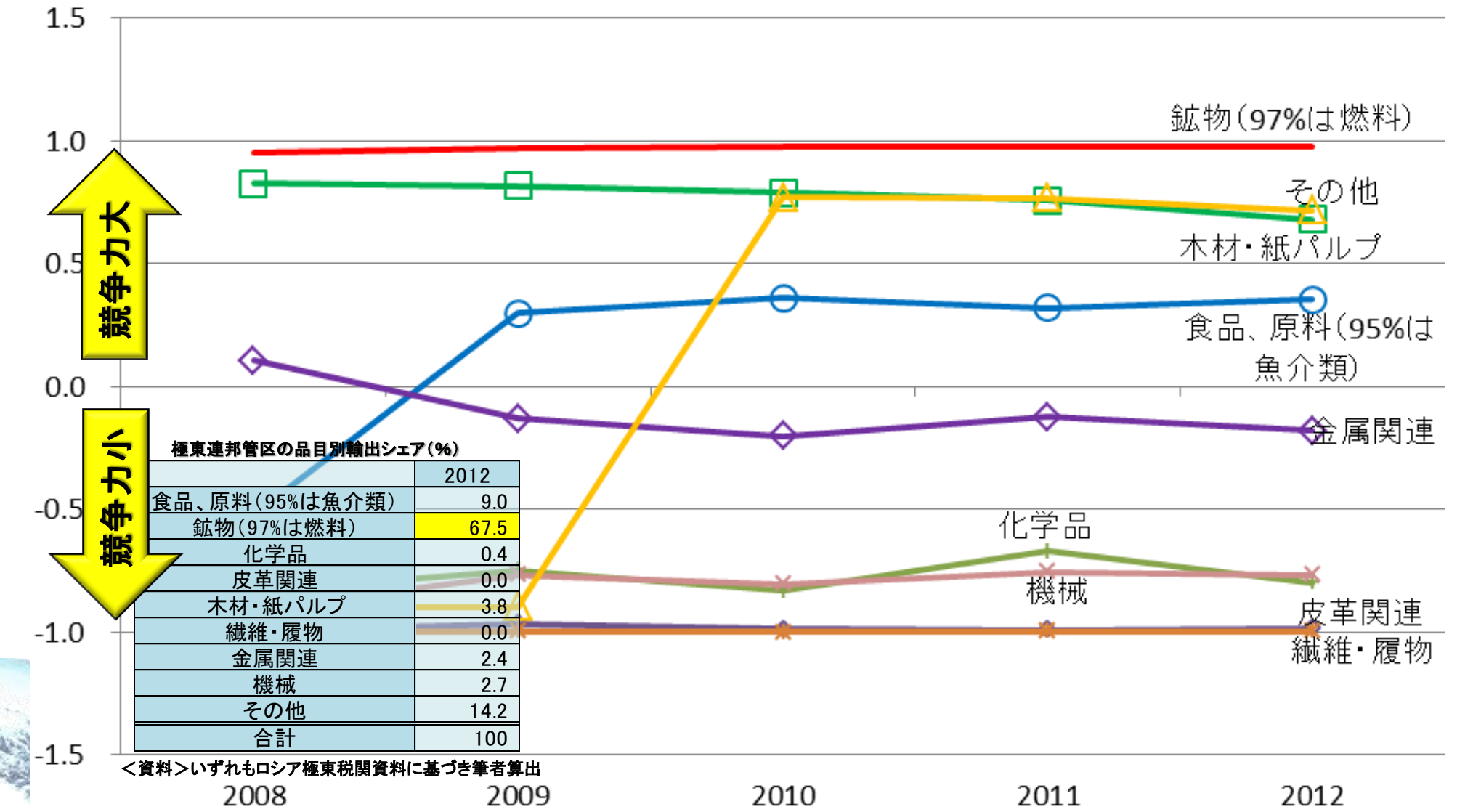
第2次大戦直後の1950年代に日本と講和・通商条約を締結、日本を英国に代わる市場に。人種差別政策である白豪主義（発端は19世紀後半のゴールドラッシュ時に流入した中国人への反発）を比較的短期間で放棄。緩やかな外資規制。金融自由化。関税保護政策放棄。

多くの点で極東ロシアに相似。極東ロシアは豪州から学べるのでは？

Ⅲ. 資源依存は悪か？オーストラリアン・パラドックスに学ぶ。

5. 極東ロシアの輸出は燃料を筆頭に資源の競争力が高い

極東連邦管区の品目別貿易特化係数＜貿易特化係数＝(輸出－輸入)÷(輸出＋輸入)＞



6. 韓国・日本・中国が極東の3大輸出先

極東連邦管区の輸出先国(2012年の上位20ヶ国、伸び率：%)

	2008		2009		2010		2011		2012	
	シェア	伸び率	シェア	伸び率	シェア	伸び率	シェア	伸び率	シェア	伸び率
韓国	36.4	—	31.3	-26.8	28.8	42.7	33.8	58.2	32.4	-1.1
日本	29.6	—	29.9	-13.9	33.1	71.8	27.4	11.4	28.9	8.7
中国	11.7	—	20.1	45.6	16.6	27.9	15.9	29.0	19.8	28.8
ベルギー	5.4	—	7.1	10.9	9.5	107.5	9.1	29.7	8.5	-3.2
インド	0.8	—	1.5	68.3	2.1	109.6	2.3	50.3	2.8	25.3
イスラエル	1.9	—	1.3	-39.9	2.0	134.0	1.8	20.8	1.6	-6.4
ウクライナ	0.9	—	0.1	-90.3	0.3	350.9	1.2	467.0	0.9	-24.2
タイ	0.8	—	0.4	-57.0	1.1	332.1	1.6	92.2	0.4	-70.9
ベトナム	0.7	—	0.6	-21.7	0.5	16.7	0.2	-31.6	0.4	90.9
英国	3.1	—	0.1	-95.9	0.0	-71.4	0.4	1715.9	0.4	18.7
香港	0.4	—	0.2	-56.7	0.2	83.7	0.2	5.5	0.4	117.8
フィリピン	0.4	—	1.4	207.8	1.0	12.5	1.0	27.7	0.3	-66.2
ドイツ	0.3	—	0.2	-49.5	0.0	-63.8	0.4	1383.7	0.3	-32.4
スイス	0.9	—	1.1	7.8	2.9	294.2	2.2	4.8	0.3	-87.5
米国	1.0	—	0.4	-63.1	0.3	18.7	0.2	-25.0	0.2	26.2
インドネシア	0.0	—	0.0	-96.5	0.0	-71.2	0.1	495倍	0.2	95.3
スリランカ	0.0	—	0.0	—	0.0	220.1	0.0	19.1	0.2	700.8
UAE	0.4	—	0.2	-56.1	0.3	88.5	0.3	44.4	0.2	-26.9
マルタ	0.0	—	0.0	920.3	0.0	-100.0	0.0	—	0.1	—
モンゴル	0.0	—	0.0	59.5	0.0	-93.2	0.1	116倍	0.1	16.7
総額	100	—	100	-14.9	100	55.3	100	34.6	100	3.3

<資料>ロシア極東税関資料に基づき筆者算出

韓国・日本・中国に旺盛な需要。ベルギー・イスラエルは宝石(サハ共和国)輸出などが多い。東南アジアとの貿易の伸びに注目。

Ⅲ. 資源依存は悪か？オーストラリアン・パラドックスに学ぶ。

7. 投資環境整備は必須。豪州並みの透明性・開放性が目標。

プーチンは2018年までに20位内を目指す

世界銀行Doing Businessランキング(2012年、全185ヶ国、括弧内は前年ランキング)

	総合ランク	事業設立	建設許可取得	電力事情	不動産登記	資金調達	投資家保護	納税	貿易	契約執行	破綻処理
中国	91(91)	151	181	114	44	70	100	122	68	19	82
ロシア	112(118)	101	178	184	46	104	117	64	162	11	53
ブラジル	130(128)	121	131	60	109	104	82	156	123	116	143
インド	132(132)	173	182	105	94	23	49	152	127	184	116

<資料>Doing Business

世界銀行Doing Businessランキング・ロシア版(2012年)

	総合ランク	事業設立	建設許可取得	電力事情	不動産登記		総合ランク	事業設立	建設許可取得	電力事情	不動産登記
ウリヤノフスク	1	3	4	5	8	ボルゴグラード	16	2	27	26	4
サランスク	2	20	8	1	8	ポロネジ	17	15	28	16	8
ウラジカフカス	3	27	11	2	2	トベリ	18	21	25	14	8
ロストフ・ナ・ドヌー	4	26	15	3	4	カリーニングラード	19	11	3	22	22
カザン	5	4	14	17	4	トムスク	20	15	6	10	25
カルーガ	6	17	9	15	1	サマーラ	21	22	24	28	8
スタブロボリ	7	4	2	9	19	サンクトペテルブルク	22	1	9	24	27
ヤロスラブリ	8	7	17	6	16	ハバロフスク	23	24	29	8	17
スルグート	9	30	1	19	8	エカテリニブルク	24	29	13	19	20
イルクーツク	10	8	6	10	18	ペルミ	25	13	12	18	27
ベトロザボーツク	11	6	16	21	8	ムルマンスク	26	12	19	27	23
キーロフ	12	13	5	4	20	ケメロボ	27	28	21	7	29
オムスク	13	19	20	13	4	ヤクーツク	28	8	26	25	30
ビボルグ	14	10	23	12	8	ノボシビルスク	29	23	18	29	24
ウラジオストク	15	18	22	23	3	モスクワ	30	25	30	30	26

<資料>Doing Business

1-1. 極東開発全体について: 決定は中央でなされるという見方が強い

<中央＝プーチン大統領>

- 13年3月現在、「2025年までの極東・バイカル地方社会経済発展戦略」を検討中。
- 専門家によれば、極東発展計画の中心となるのは、「エネルギー開発」「エネルギーインフラ(パイプライン・電力網)」「輸送インフラ(バム鉄道完全複線化と電化<事業費1兆ルーブル>、シベリア鉄道の輸送効率向上)」。
- 中央の管理下には対外経済銀行傘下の「直接投資基金(ロシア版SWF)」も存在。極東バイカル地域開発基金と競わせ、且つ民間資金の呼び水にしたい考え。
- 結局、現時点では極東は公共投資頼み。従い、**極東の発展は中央が決めるというのが多くの専門家の共通した見方**。プーチン大統領以外ではシュバロフ第1副首相、ナルイシキン下院議長、ショイグ・モスクワ州知事、セーチン・ロスネフチ会長などが影響力を保有。
- 極東全体を発展させるのは困難。従い、ウラジオストック・ユジノサハリンスク・ハバロフスクなど「重要都市」を指定し、集中投資を行うとの見方も。

<極東発展省>

- 12年11月、極東バイカル地域開発基金(対外経済銀行の子会社。現在850億ルーブル、最大1000億ルーブルに増額予定。)に総額5兆ルーブル・92案件を提出。但しバム鉄道案件だけで基金総額を上回るなど実現困難。
- イシャーエフ大臣によれば、2015年までに政府は極東に3.3兆ルーブル、18-20年には更に9兆ルーブル拠出すると。
- イシャーエフ大臣はモスクワへの富の集中を批判。同氏いわく「**サハリン州での収入1ルーブルに対し、地元には落ちるのは8カペイカ(8%)**」。
- イシャーエフ大臣の開発手法は減税など供給側インセンティブ向上を重視。一方、中央は需要を重視しており、**意見の相違が見られる**。
- イシャーエフ大臣は2025年までの予算として当初より2兆ルーブル少ない3.7兆ルーブルを要求。更に投資家から8兆ルーブル調達予定。

<極東(&シベリア)開発公社>(構想段階)

- 12年初めにショイグ氏(現モスクワ州知事)が提案。幹部人材難で実現されず。結局極東発展省が設立された。
- しかし12年11月に**プーチンが極東発展省の仕事ぶりに不満表明**。それを受けた経済発展省提案において再び極東・シベリア開発公社構想が復活。

IV. 極東の課題

1-2. 中央主導案件①: ウラジオストク空港



IV. 極東の課題

1-3. 中央主導案件②: ルースキー島 (APEC会場) と本土をつなぐ橋



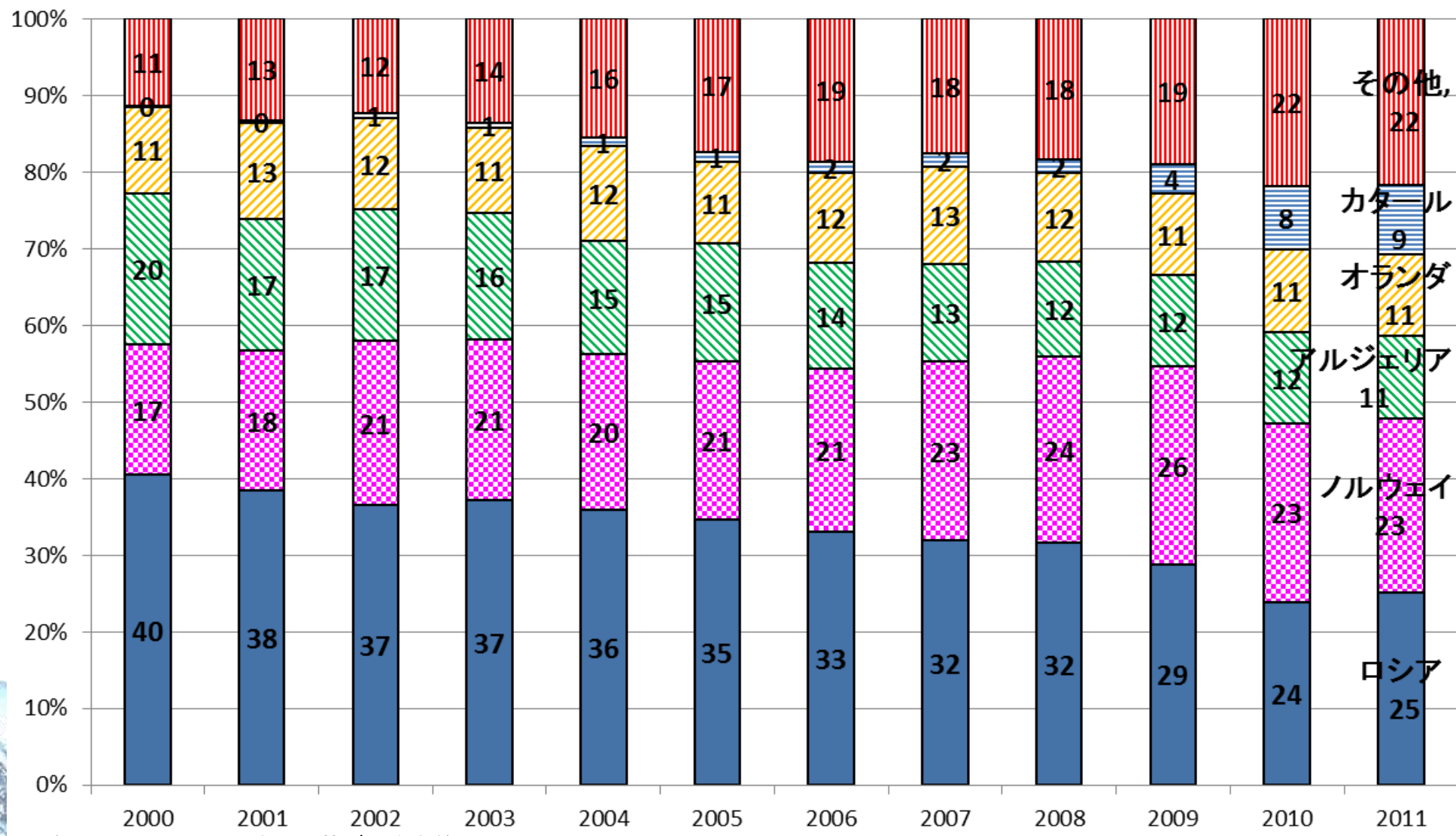
IV. 極東の課題

1-4. 中央主導案件③: ルースキー島 (APEC会場) の施設



2. 欧州でのロシア産天然ガスのシェアは低下

EU27ヶ国における天然ガス輸入先シェア(原産地基準、数量ベース)



<資料>EUROSTAT統計に基づき筆者算出


3. シェールガス革命を受けた「プーチンの一声」でガス輸出規制緩和の気配

＜シェールガス革命を受けたロシアの動き：天然ガス供給増加要因＞

- 2013/02/13 プーチン大統領、「**LNG輸出の段階的な自由化**の可能性を熟慮する必要性」について言及（2006年よりガス輸出はガスプロムが独占している。）。セーチン・ロスネフチ会長、北極圏エネルギーの開発にあたって大陸棚のLNG輸出の自由化が必要と主張。更に税制や輸出税を通じた刺激策も必要と発言。
- 2013/02/14 ロスネフチ、中国から300億ドルの融資を受ける可能性。これに対しロスネフチは対中原油輸出を2倍にする可能性も。＜Vedomosti紙2013/02/14＞
- 2013/02/19 セーチン・ロスネフチ会長、中国との大陸棚共同開発とLNGプラント建設を北京にて提案（中国側は副首相とCNPC社長、CNOOC会長、SINOPEC）。場所はバレンツ海、ペチョラ海。CNOOCは大陸棚開発の豊富な経験もち、北極圏開発のパートナーとして有望。＜Vedomosti紙2013/02/19＞
- その後、セーチン・ロスネフチ会長は2月に訪日。またガスプロム・ミレルCEOも3/13に北京訪問。

＜中東における不安要因：天然ガス供給減少要因＞

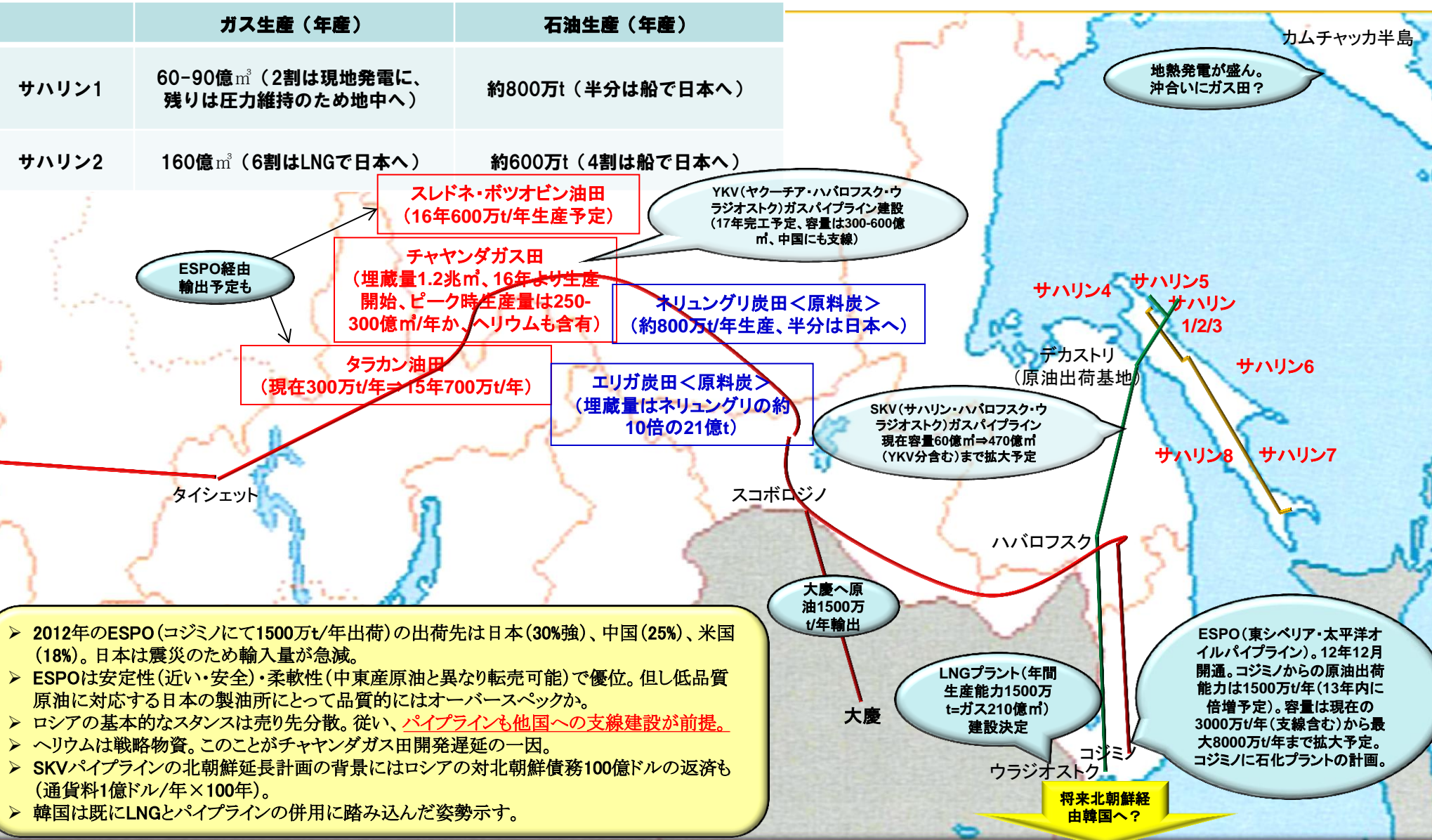
- アラブの春に伴う兵器拡散を受け、中東や北アフリカは長い大変動期を迎えそう。特にアルジェリア・シリア・クウェート。
- イラク：連邦政府とクルド自治政府の対立
- イランvsイスラエル・米国
- サウジアラビア：後継者問題・東部政情不安定
- 米国の中東への関与低下



アジア市場を巡り
ロシアを含む世界のガスが
激突！

IV. 極東の課題

4. 極東のエネルギー開発・輸送の概観(主要案件のみ)



- 2012年のESPO(コジミノにて1500万t/年出荷)の出荷先は日本(30%強)、中国(25%)、米国(18%)。日本は震災のため輸入量が急減。
- ESPOは安定性(近い・安全)・柔軟性(中東産原油と異なり転売可能)で優位。但し低品質原油に対応する日本の製油所にとって品質的にはオーバースペックか。
- ロシアの基本的なスタンスは売り先分散。従い、パイプラインも他国への支線建設が前提。
- ヘリウムは戦略物資。このことがチャヤンダガス田開発遅延の要因。
- SKVパイプラインの北朝鮮延長計画の背景にはロシアの対北朝鮮債務100億ドルの返済も(通貨料1億ドル/年×100年)。
- 韓国は既にLNGとパイプラインの併用に踏み込んだ姿勢を示す。

5-1. ロシア側貿易統計で見る限り、日本は既に最重要市場

ロシアの主要ガス輸出先国

	輸出金額(千ドル)			輸出数量(トン)			単価(ドル/トン)		
	2009	2010	2011	2009	2010	2011	2009	2010	2011
世界	40924495	47767362	5528880	73651240	95736854	12583773	556	499	439
日本	600314	2203411	3269110	2147279	6458300	6726191	280	341	486
ポーランド	315799	521667	674197	893809	943264	943819	353	553	714
韓国	53585	628651	472736	320909	3422564	2899802	167	184	163
トルコ	83459	184186	280487	257209	362425	397460	324	508	706
フィンランド	71143	128216	190097	191712	209332	243989	371	613	779
ウクライナ	19617	99318	101043	63018	188615	136078	311	527	743
ハンガリー	41974	71122	69847	111705	120647	96055	376	590	727
中国	27918	64621	66609	193794	325872	324438	144	198	205
ラトビア	31682	47729	66376	82680	86287	90169	383	553	736
スウェーデン	4335	26529	47718	9103	48745	64090	476	544	745
リトアニア	13714	31597	45963	33177	55130	60045	413	573	765
スロバキア	24197	26420	40486	54905	43202	55910	441	612	724
モルドバ	10043	20985	25656	33952	42167	35081	296	498	731
ルーマニア	3350	17274	17605	11782	33524	24513	284	515	718
イタリア	0	9235	15979	0	14749	22239	0	626	719
オランダ	417	8950	15233	1020	17490	22036	409	512	691
ブルガリア	3900	23591	11926	10844	52854	18775	360	446	635
モンゴル	684	1557	2544	1421	2228	2957	481	699	860

<資料>International Trade Centreのロシア貿易統計に基づき筆者算出



5-2. 「日の丸原油」第1号は北樺太石油株式会社：歴史は繰り返す

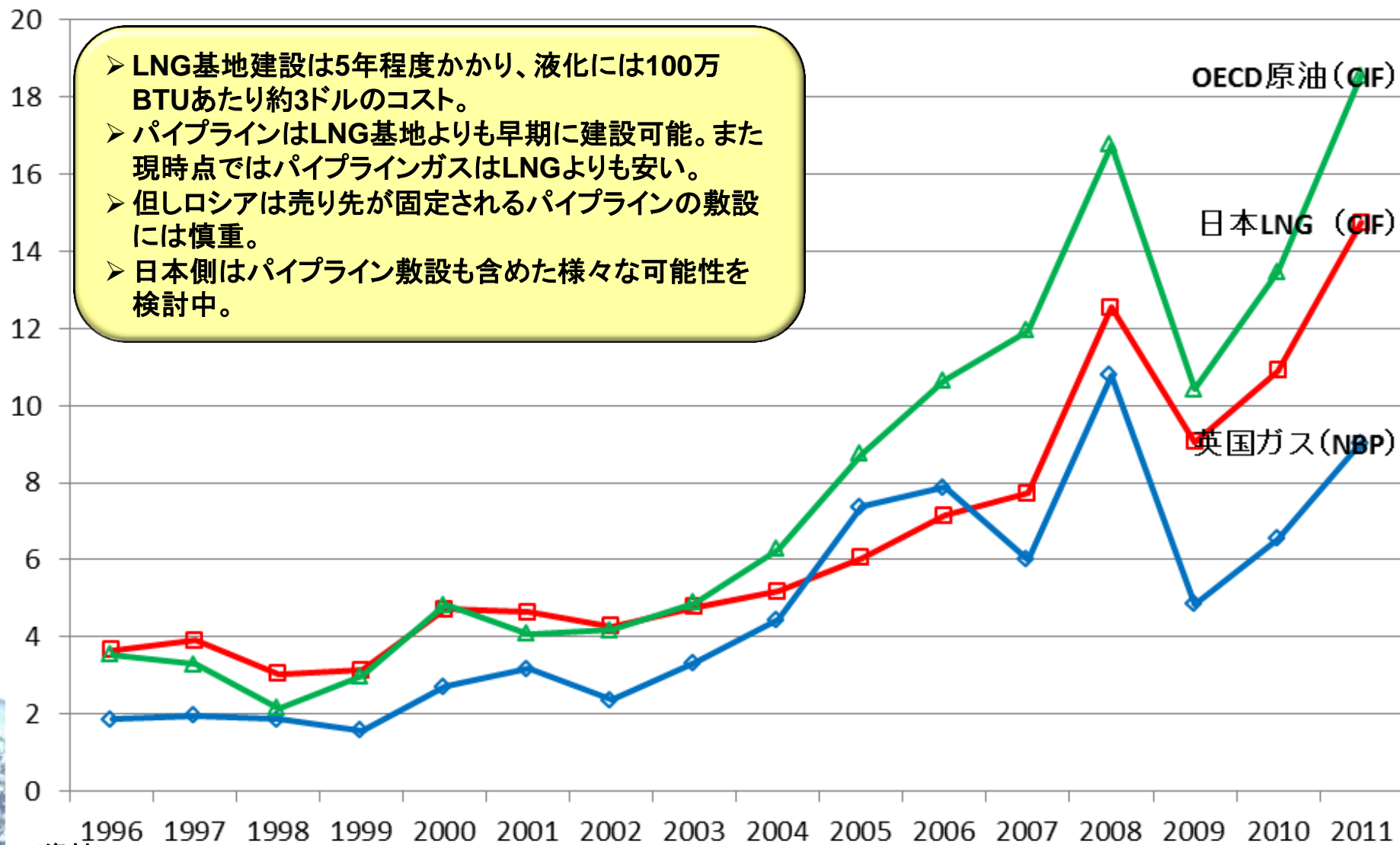


- 日本の石油開発の歴史を遡ってみると、カフジ油田（アラビア石油）に先立つこと34年、1926年に北樺太石油会社が、旧ソ連・サハリンのオハにおいて日本初の石油の海外自主開発に成功。北樺太石油会社が存在したのは僅か18年間だが、その間に産油井・試掘井合計311坑を掘り、総産油量は223万8,492トン。
- 写真は北樺太石油利権問題を決着した日ソ基本条約調印の様相（1925年）。

<資料>「戦前のサハリン油田開発—北樺太石油会社顛末記」（土屋嘉徳著、朝日新聞出版サービス）

6. 日本もパイプラインガス導入の可能性を検討中

LNGとパイプラインガスの価格推移(ドル/百万BTU)



- LNG基地建設は5年程度かかり、液化には100万BTUあたり約3ドルのコスト。
- パイプラインはLNG基地よりも早期に建設可能。また現時点ではパイプラインガスはLNGよりも安い。
- 但しロシアは売り先が固定されるパイプラインの敷設には慎重。
- 日本側はパイプライン敷設も含めた様々な可能性を検討中。

<資料> BP Statistical Review of World Energy June 2012

IV. 極東の課題

7-1. 中露エネルギー協力はガス分野に遅れ：価格が決まれば拡大余地大

ロシア・中国・日本間でのエネルギー協力(2012年)

		単位(万t)	ロシアの輸出に占める割合(%)	中国の輸入に占める割合(%)	日本の輸入に占める割合(%)
ロシア⇒中国	ガス	39	0.5	1.2	—
	石油	2,736	7.2	8.8	—
	石炭	1,874	14.4	8.0	—
ロシア⇒日本	ガス	730	9.0	—	7.3
	石油	760	2.0	—	3.6
	石炭	1,245	9.5	—	6.7

<資料>International Trade Centreの統計に基づき筆者算出。HSコードはそれぞれガス(2711)、石油(2709、2710)、石炭(2701)を集計。

各国のガス輸入形態比率(2011年)

	総輸入		純輸入	
	パイプ	LNG	パイプ	LNG
フランス	69	31	67	33
ドイツ	100	0	100	0
イタリア	87	13	87	13
スペイン	34	66	34	66
トルコ	85	15	85	15
英国	53	47	32	68
その他欧州	90	10	90	10
欧州全体	80	20	69	31
日本	0	100	0	100
中国	46	54	40	60

<資料>BP Statistical Review of World Energy June 2012

➤ エネルギー大生産国・ロシアとエネルギー大消費国・中国は石炭・石油分野では協力が進んでいるが、ガス分野では協力が進んでいない。隣接する両国だが、現在行われているガス貿易はサハリンからのLNGであり、パイプライン経由はほぼゼロ。

➤ しかしプーチン大統領は2012年の就任後初の訪問国として中国を選択。中国の習近平主席も就任後初の訪問国をロシアとする見通し。またプーチンは2004年に中国との領土問題を解決し、国家の重心をアジアにシフトする姿勢を明示しており、中露関係は一般に思われているよりは良好。

➤ その証拠に既に中露間で石炭・石油分野の協力は進展している(P40,41参照)。ガス協力が進展しないのは、(明確な市場価格が存在しない)ガス価格を巡る経済的な問題であるとの見方が優勢(ガス取引数量については2006年に380億m³/年にて妥結済み)。また中国にとって石油・石炭の調達優先度がガスよりも高いこと(中国の発電は石炭中心)、ガス輸送インフラ不足も理由のひとつ。

➤ 従い、中露ガス協力は価格交渉が妥結すれば大きな拡大が期待される分野である。現状、2013年内の価格妥結が目標。

IV. 極東の課題

7-2. 中国側貿易統計によれば、ロシアは第3位の石炭輸入先国

中国の主要石炭輸入先国(2012年輸入金額基準上位20ヶ国)

	輸入金額(千ドル)			輸入量(トン)			単価(ドル/トン)		
	2010	2011	2012	2010	2011	2012	2010	2011	2012
世界	16,921,988	20,883,862	25,340,562	164,568,497	182,054,129	234,865,899	103	115	108
豪州	5,446,687	5,149,728	7,738,131	36,966,734	32,558,225	59,531,675	147	158	130
インドネシア	4,344,539	6,323,609	6,224,778	54,767,697	64,412,021	68,312,266	79	98	91
ロシア	1,503,859	1,578,205	2,396,001	11,582,720	10,573,424	20,182,548	130	149	119
モンゴル	1,013,846	1,594,579	1,693,532	16,594,780	20,154,675	21,727,248	61	79	78
南アフリカ	690,192	1,163,032	1,565,202	7,003,554	9,257,854	14,277,432	99	126	110
カナダ	892,031	926,253	1,471,308	5,197,380	4,495,141	8,363,034	172	206	176
ベトナム	1,320,288	1,830,004	1,335,097	18,047,423	22,074,336	17,433,845	73	83	77
米国	763,288	844,907	1,217,355	4,767,890	4,899,837	9,310,568	160	172	131
北朝鮮	395,452	1,153,812	1,206,525	4,638,814	11,169,098	11,872,652	85	103	102
コロンビア	411,411	155,137	288,590	3,778,868	1,309,998	2,568,291	109	118	112
ニュージーランド	72,206	74,899	116,101	366,968	388,177	681,621	197	193	170
モザンビーク	0	4,461	36,623	0	33,562	207,963	0	133	176
マレーシア	18,518	36,630	25,294	150,589	317,549	184,416	123	115	137
イラン	1,551	18,854	22,021	11,098	109,638	144,695	140	172	152
ペルー	0	0	1,927	0	0	15,498	0	0	124
ラオス	1,587	1,356	1,084	43,094	33,966	22,677	37	40	48
キルギス	127	254	654	4,756	10,598	26,221	27	24	25
韓国	0	7,469	191	0	99,179	2,022	0	75	94
ポルトガル	22	0	62	95	0	191	232	0	325
ベネズエラ	8,223	0	31	55,787	0	92	147	0	337

<資料>International Trade Centre。原油はHSコード2709。



IV. 極東の課題

7-3. 中国側貿易統計によれば、ロシアは第3位の原油輸入先国

中国の主要原油輸入先国(2012年輸入金額基準上位20ヶ国)

	輸入金額(千ドル)			輸入量(トン)			単価(ドル/トン)		
	2010	2011	2012	2010	2011	2012	2010	2011	2012
世界	135,299,673	196,770,605	220,546,953	239,308,696	253,769,324	271,102,214	565	775	814
サウジアラビア	25,538,596	39,015,428	44,125,321	44,646,861	50,278,424	53,908,525	572	776	819
アンゴラ	22,748,977	24,809,999	33,304,300	39,381,269	31,148,838	40,155,451	578	796	829
ロシア	8,882,172	16,322,977	20,470,172	15,240,779	19,724,509	24,329,842	583	828	841
イラン	12,070,150	21,820,145	17,837,083	21,319,452	27,747,134	22,010,126	566	786	810
オマーン	9,097,161	13,818,484	15,800,524	15,867,621	18,153,209	19,569,925	573	761	807
イラク	6,272,768	10,438,936	12,642,759	11,237,565	13,773,637	15,683,849	558	758	806
ベネズエラ	3,568,906	7,297,437	10,416,370	7,547,157	11,517,740	15,289,952	473	634	681
カザフスタン	5,552,401	8,858,660	8,719,229	10,053,820	11,211,009	10,703,672	552	790	815
クウェート	5,471,637	7,343,681	8,401,553	9,830,660	9,541,459	10,490,728	557	770	801
UAE	3,109,351	5,518,694	7,480,739	5,285,062	6,735,182	8,743,694	588	819	856
リビア	4,463,495	2,050,040	6,366,945	7,373,014	2,591,651	7,307,330	605	791	871
ブラジル	4,231,065	4,884,778	4,639,819	8,047,099	6,709,277	6,080,118	526	728	763
コンゴ	2,791,354	4,351,793	4,261,912	5,048,262	5,630,643	5,365,464	553	773	794
豪州	1,630,226	3,313,058	3,272,941	2,870,205	4,080,158	3,715,514	568	812	881
イエメン	2,427,863	2,578,992	3,072,820	4,019,911	3,098,061	3,584,477	604	832	857
アルジェリア	1,133,793	1,941,940	2,261,368	1,752,697	2,173,047	2,571,945	647	894	879
コロンビア	993,579	1,586,940	2,116,217	2,000,045	2,234,491	2,908,618	497	710	728
スーダン	6,556,199	9,417,862	1,991,374	12,598,990	12,988,991	2,506,429	520	725	795
赤道ギニア	489,076	1,448,171	1,689,078	822,652	1,762,830	2,001,291	595	822	844
マレーシア	1,274,890	1,382,331	969,887	2,079,424	1,714,994	1,114,665	613	806	870

<資料>International Trade Centre。原油はHSコード2709。



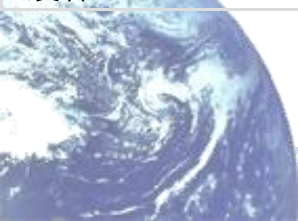
IV. 極東の課題

7-4. 中国側貿易統計によれば、ロシアは第10位の天然ガス輸入先国

中国の主要ガス輸入先国(2012年輸入金額基準上位20ヶ国)

	輸入金額(千ドル)			輸入量(トン)			単価(ドル/トン)		
	2010	2011	2012	2010	2011	2012	2010	2011	2012
世界	6,367,433	13,438,212	19,497,295	15,210,759	26,069,652	32,900,168	419	515	593
トルクメニスタン	992,993	4,651,658	7,888,964	2,594,114	10,366,492	14,521,692	383	449	543
カタール	1,303,105	2,844,076	5,368,238	1,907,734	3,256,077	5,606,608	683	873	957
豪州	954,090	761,892	864,680	4,210,459	3,762,617	3,827,751	227	202	226
マレーシア	443,108	735,656	853,646	1,225,491	1,617,178	1,933,733	362	455	441
UAE	314,344	548,855	755,483	471,397	634,166	821,839	667	865	919
インドネシア	394,844	418,113	543,573	1,701,424	1,985,475	2,433,138	232	211	223
サウジアラビア	270,319	273,572	531,481	372,949	310,691	602,258	725	881	882
クウェート	145,156	465,875	434,257	210,841	529,192	461,919	688	880	940
イエメン	289,979	479,072	429,301	527,133	810,688	596,865	550	591	719
ロシア	196,027	195,877	339,080	380,371	251,925	380,601	515	778	891
ナイジェリア	85,597	541,788	317,967	159,720	715,878	406,943	536	757	781
エジプト	34,502	146,076	235,415	80,172	178,281	292,417	430	819	805
韓国	65,045	95,982	215,044	81,160	93,887	176,954	801	1022	1215
イラン	661,949	588,085	169,037	926,667	701,724	170,117	714	838	994
タイ	0	15,942	102,137	0	13,832	84,509	0	1153	1209
トリニダード・トバゴ	21,619	253,561	98,662	49,107	326,212	165,938	440	777	595
シンガポール	11	11,825	90,174	1	11,413	80,164	11000	1036	1125
アンゴラ	46,758	0	57,134	64,054	0	55,249	730	0	1034
ウズベキスタン	0	0	52,846	0	0	110,866	0	0	477
オマーン	0	0	51,988	0	0	63,488	0	0	819

<資料>International Trade Centre。原油はHSコード2709。



IV. 極東の課題

8-1. 中露国境に行く: 黒龍江省・黒河①中露語併記が基本(レストラン)



IV. 極東の課題

8-2. 中露国境を行く: 黒龍江省・黒河②ロシア的建築



8-3. 中露国境に行く: 黒龍江省・黒河③中露語併記が基本(道路標識)



IV. 極東の課題

8-4. 中露国境に行く: ロシア・アムール州・ブラゴヴェシensk①(北京時間)



8-5. 中露国境に行く: ロシア・アムール州・ブラゴヴェンensk②両替所



ドル・ユーロに次ぐ第3
の通貨は人民元

2013/03/03 09:29

中露両国後併記





8-8. 中露国境に行く: 住民レベルでは中露間の摩擦は感じず

＜中国側国境(黒龍江省黒河市)での印象＞

- ロシア側税関・中国側税関、いずれも日本人に対する審査は厳しい。ロシア人・中国人の審査は円滑に行われていた様子。
- 黒河市はロシア人観光客の消費に期待している模様。しかし季節(まだ寒い3月)のせいかロシア人観光客の姿はまばら。街の中心部でも目見当で約1%程度。
- 黒河市の財・サービス価格を一言で言えばロシアの約1/3。実際、ロシア人も旅費をかけてでも黒河市に買い物に来るといふ(その方がトータルで安い)。
- 黒河市中心部の商店街では大多数の店員がロシア語を理解。利用したタクシーの運転手は日常会話であれば全く問題なくロシア語を操る。但し英語は通じない。

＜ロシア側国境(アムール州ブラゴヴェシensk)での印象＞

- 中露国境の町にしては中国人が目立たない。但し、P46-48の写真を見る限り、この地域において中国の重要性が相対的に高いことは事実のようである。
- 中国人はいくつかの市場で集中して商業に従事している模様。逆に言えば、そのような場所以外で中国人を見ることは多くない。
- 現地ロシア人の中国人に対する感情は様々。しかし概ね共通していたのは、「中央アジアやコーカサスからの出稼ぎ労働者よりはまし」という見方。彼らと比較すれば中国人は勤勉でルールを守るとみなされているという印象。
- 極東の大学を2つ訪問したが、両校に孔子学院が存在(2008年5月1日時点では全ロシアに16ヶ所)。中国政府のロシアにおけるソフトパワー浸透にける熱意を感じた。尚、孔子学院は外国人に中国語・中国文化を有料で教授する場であり、政治色は強くないとの評価。

9. ロシアからの電力輸出: 検討すべき選択肢のひとつ?

ロシアの電力輸出の状況(FOBベース)


	輸出額(千ドル)		輸出量(MWH)		FOB単価(US\$/MWH)		CIF単価(US\$/MWH)	
	2011	2012	2011	2012	2011	2012	2011	2012
合計	1,104,441	1,019,251	18,134,819	19,143,296	61	53	-	-
リトアニア	306,841	252,398	5,038,305	4,780,170	61	53	56.0	-
ベラルーシ	0	232,567	0	3,698,125	-	63	60.0	-
フィンランド	686,291	212,281	11,268,838	4,393,356	61	48	64.0	-
中国	52,049	128,678	854,646	2,630,173	61	49	42.0	49.0
カザフスタン	0	115,019	0	2,299,983	-	50	2.4	-
グルジア	25,992	37,513	426,793	647,260	61	58	-	-
モンゴル	16,697	25,740	274,163	392,750	61	66	-	-
ウクライナ	1,085	7,034	17,816	93,643	61	75	41.0	-
ノルウェー	9,321	4,923	153,043	152,065	61	32	66.0	45.0
アゼルバイジャン	2,367	3,098	38,859	55,770	61	56	52.0	-
その他	3,798	0	62,356	0	61	-	-	-
ラトビア	0	0	0	0	-	-	-	-

<資料>International Trade Centre

日本では極東ロシアから電力を購入するアイデアも浮上。貿易統計からロシアの電力輸出実績を見ると、2012年のFOB価格で最高US\$75/MWHとなっている。輸出先国の貿易統計から見たCIF価格は(FOB価格よりも安いなど)不可解なものが多いが、2012年は最高でUS\$49/MWH。資源エネルギー庁によれば、日本の2009年の産業用電力はUS\$158/MWH。単純比較は難しいが、長期的に考えた場合、電力の輸入も検討すべき選択肢のひとつかも知れない。既に「自然エネルギー財団」は極東から東南アジア・南アジアを送電網でつなぐ「アジアスーパーグリッド」構想を発表。「日本創成会議」も日韓から豪州まで結ぶ「アジア大洋州電力網」構想。尚、海外では「ASEANパワーグリッド計画」に基づき、タイとマレーシア・ラオスで電線がつながっている。

最後に、極東ロシアから太平洋ロシアへ。透明で開かれた供給力に期待。

1. これまで極東ロシアが置かれた状況は非常に厳しく、人口減など様々な問題に見舞われていることは事実。
2. しかし、プーチン大統領の鶴の一声でAPECが開催され、それに関連して一部でインフラ整備が進むなど、歴史的に見れば極東ロシアには追い風が吹いている。
3. 極東ロシアの最大の武器は各種資源(広大な土地も含む)とアジアに隣接する立地。短期的にはこれらのポテンシャルを最大限に利用し、住民の厚生を高め、これ以上の人口流出を防ぐことが重要。
4. 極東ロシアと豪州の間には多くの共通点(恵まれた資源・広大な国土・多様な人種)。豪州が先進国となった背景には、透明で開かれた政策がある。極東ロシアも豪州の歴史から学べることは多い。
5. 一般に思われているよりも中露関係は良好な模様。従い、エネルギーをはじめとする中露経済協力を推し進めることこそが、極東ロシアの利益に適う。



アジアとの共存を目指す地域として、
「極東ロシア」という呼び名は不適當。
「太平洋ロシア*」が妥当！

*ロシア科学アカデミー極東支部 極東歴史・考古学・民俗学研究所のラーリン所長発言から

丸紅株式会社

経済研究所

シニア・アナリスト

榎本 裕洋（えのもと やすひろ）

TEL: (03) 3282-7582

MAIL: Enomoto-Y@marubeni.com

